

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立沼津聴覚特別支援学校

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	21
学校施設の概要	22
在籍生徒調	24
入学志願者及び入学者数調	26
卒業生の動向調	27
生徒の状況	28
特別支援学校における生産物受払調	30
歳入予算執行状況調	31
現金出納調	35
預金調	36
郵券等受払調	36
歳入歳出外現金調	37
歳出予算執行状況調	38
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	44
委託料に関する調	45
負担金支出調	49
建築工事調	51
繰越工事調	53
公有財産調	55
借地借家等調	57
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	58
行政財産貸付・使用許可調	59
備品・図書調	60
主要備品調	64

事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

- 昭和24年 4月 1日 静岡県立沼津聾学校設立認可・創立
 4月15日 駿東教育事務所において執務開始
 5月10日 入学式挙行・開校記念日
 6月10日 開校式挙行
 7月22日 沼津市米山町536の5（現沼津盲学校）へ校舎建築着工
 12月17日 沼津市米山町536の5（現沼津盲学校）の新校舎に移転
 昭和27年 3月31日 盲学校より分離移転のため、沼津市三枚橋八反庄565の1
 （現沼津聴覚特別支援学校所在地）
 3,404.72坪第1期盛土作業完了
 12月23日 沼津聾学校校舎新築工事着工
 昭和28年 6月 1日 本館第1校舎完成
 6月 4日 盲学校・聾学校分離、新校舎に移転
 昭和29年 1月 9日 沼津市岡宮開拓1659（現寄宿舍）へ寄宿舍新築着工
 4月 校章制定（霊峰富士の姿と沼津聾学校のN）
 昭和30年 3月19日 小学部第1回卒業式挙行
 昭和33年 3月20日 中学部第1回卒業式挙行
 3月29日 高等部理容科を理容師養成施設として県知事指定された。
 4月 1日 高等部理容科・木工科・洋裁科（洋裁紳士服）を開設
 昭和35年 2月25日 高等部理容科に実地習練の理容所認可
 4月 1日 高等部洋服科を開設（洋裁科より分離）
 昭和36年 1月24日 木工室完成
 3月18日 高等部第1回卒業式挙行
 昭和37年 4月 1日 幼稚部設置認可・開設
 昭和39年12月11日 体育館完成
 昭和41年 4月 1日 高等部洋裁科・洋服科を合併し、被服科を開設
 昭和44年 4月 1日 幼稚部3歳児学級開設
 昭和45年 4月 1日 幼稚部2歳児学級開設
 11月28日 校歌制定（井上靖作詞・平尾良威作曲）
 12月15日 高等部統合に伴い高等部寄宿舍新築工事着工（RC 4F）
 昭和46年 4月 1日 県下聾学校高等部を沼津聾学校に統合（学年進行）、高等部に普通科
 を、被服科に和裁コース並びに別科（2年）を新設
 8月20日 工芸実習棟工事着工
 8月31日 高等部寄宿舍〔集団棟〕（1,302.55㎡ RC 4F）完成
 昭和47年 1月26日 文部省より養護・訓練について研究校の指定を受ける。（2ヵ年継続）
 昭和48年 4月 1日 高等部木工科を産業工芸科と改称。別科を廃止し、生活技能科を新設
 幼稚部2歳児学級認可
 昭和49年 4月 1日 高等部に専攻科（理容1ヵ年修業）を新設
 11月29日 高等部・幼稚部校舎（2,202.55㎡ RC 4F）完成
 昭和52年12月28日 低学年部寄宿舍〔個別棟〕工事着工（RC 2F）
 昭和53年 3月25日 低学年部寄宿舍〔個別棟〕（507㎡）完成
 8月18日 管理棟工事着工（RC 3F）
 昭和54年 3月31日 管理棟第1期工事（1,062.48㎡）完成
 昭和55年 3月31日 管理棟第2期工事（1,332.83㎡）完成
 11月14日 体育館補修工事完成
 11月16日 創立30周年並びに校舎落成記念式典挙行
 昭和56年 8月21日 プール20m×4コース・小プール4.5m×6m・更衣室便所54.45㎡・
 ポンプ室6.5㎡完成

昭和59年11月12日 住居表示変更により所在地表示変更
(学 校) 沼津市泉町 4番 1号
(寄宿舎) 沼津市泉町 3番29号

昭和63年 4月 1日 県教委より特殊教育「教育課程」について研究校の指定を受ける。
(2ヵ年継続)

平成 2年 3月31日 高等部の被服科を廃止
9月14日 給食室「木の教室」改装完成

平成 3年 3月31日 高等部の産業工芸科を廃止
4月 1日 高等部に生産応用科を新設

平成 4年 5月19日 文部省より社会の変化に対応した新しい学校運営等に関する調査研究
協力校の指定を受ける (3ヵ年継続)

平成 6年12月15日 沼津市公共下水道に接続

平成 8年 7月29日 平成7年度耐震診断結果により、平成9年度改修工事に向けて北校舎
及び寄宿舎集団指導棟の補強実施設計に着手

平成 9年 9月22日 北校舎耐震補強工事完成
10月 9日 寄宿舎集団指導棟耐震補強工事完成

平成10年 4月 1日 高等部の学科を改編し、生産応用科 (情報処理コース・理容コース)
及び特進技能科 (普通コース・生活技能コース) に改める。
また、高等部本科並びに専攻科の定員減 (9人→8人) を行う。
理容師法改正に伴い理容師養成施設として厚生大臣指定される。
9月14日 管理棟耐震補強工事完成

平成11年12月 4日 創立50周年記念式典挙行

平成13年 3月23日 老朽体育館改築事業により体育館及び便所棟完成

平成13年 4月 1日 通級指導教室開設

平成14年 4月 1日 松崎通級指導教室開設

平成15年10月15日 給食棟耐震工事完成

平成16年 4月 1日 中伊豆通級指導教室開設

平成17年 4月 1日 特進技能科の生活技能コースを職業基礎コースに改める。

平成17年 4月 1日 沼津盲学校寄宿舎休舎に伴い盲学校の生徒を受け入れる。

平成17年10月25日 産業工芸棟、遊戯棟耐震補強工事完成

平成20年 4月 1日 校名を静岡県立沼津聴覚特別支援学校に改める。

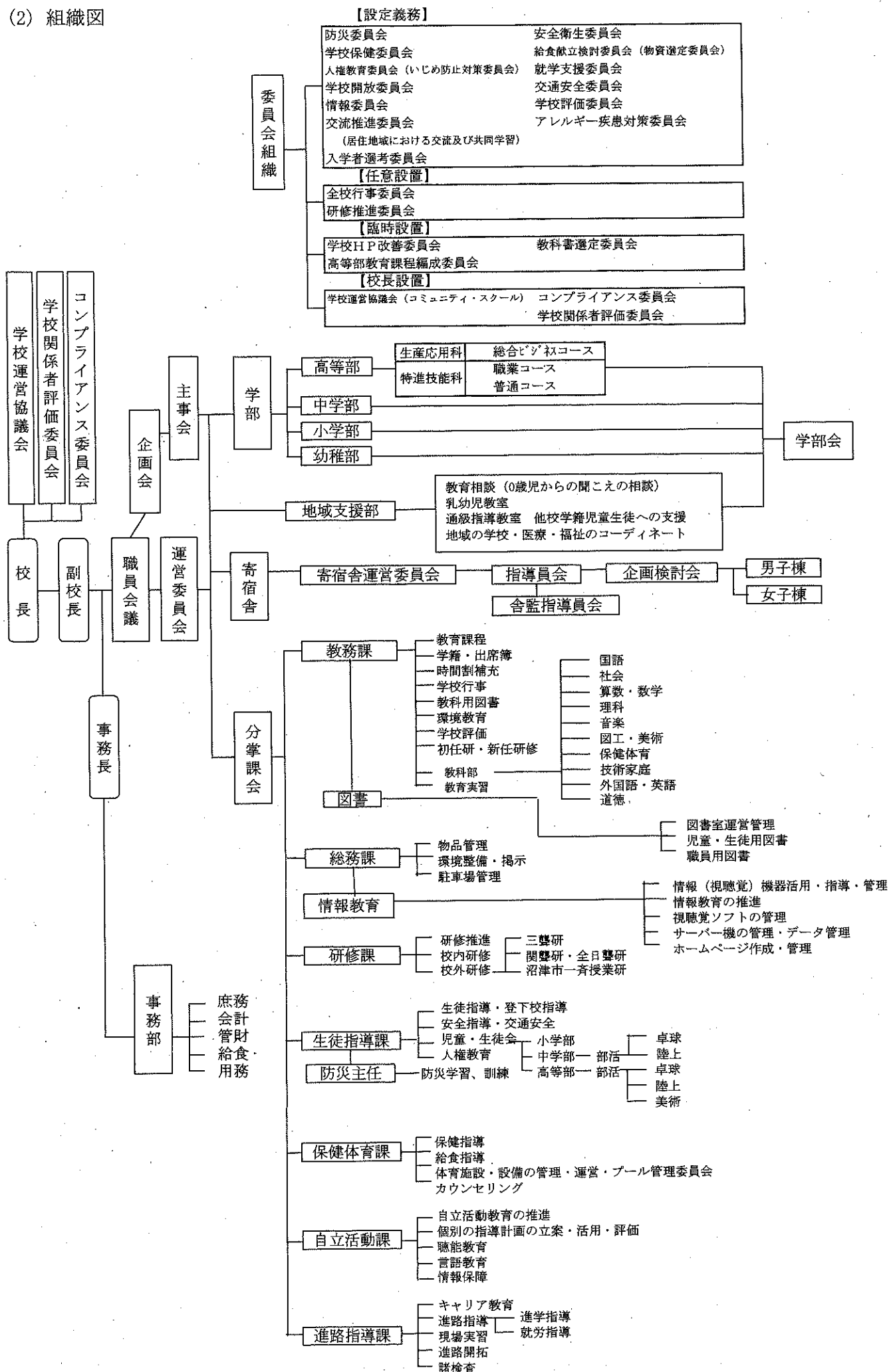
平成25年 4月 1日 高等部特進技能科職業基礎コースを職業コースに、生産応用科情報コースを総合ビジネスコースに改める。

平成30年 3月31日 理容師養成施設の廃止を承認される。

平成30年 4月 1日 学則改正により高等部専攻科理容科を廃止する。
生産応用科の理容コースを廃止する。

令和元年 7月 1日 普通教室空調設備設置工事により普通教室25室空調設備を設置

(2) 組織図



2 目指す学校像

- ・安全教育や環境の整備を行い、命を守る安全・安心な学校
- ・一人一人の子どもの思いや教育的ニーズに応じながら「生きる力」を育てる学校
- ・地域との連携・協力を進めたり、聴覚障害教育のセンター的役割を果たしたりする学校
- ・教職員が自ら研鑽に励み、互いを尊重し、思いやりながら協働する学校

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	魅力ある聴覚特別支援学校の教育の推進	教職員が特別な教科道德、各教科の授業、日常生活の場面において、人権教育や心の教育を意識した指導を行うことができる (教職員アンケート AB100%)	96%	A	自己肯定感、自己有用感が高められるように働きかけや職員間の情報共有をすることで適切な指導につなげることができた。生徒に対する言葉遣いに気を付けていく。
		児童生徒が自分の良いところや友達の良いところをこたえられる。 (児童生徒アンケート AB100%)	84%	B	肯定的な言葉がけを行ってきたことで自分自身だけでなく友達の良いところを見つけられるようになってきた。自分を見つめ直す時期も考慮し、対応していく。
		教職員が、子どもの命を守るための方法がわかり、適切な判断や行動ができる。 (教職員アンケート AB100%)	98%	A	防災計画書と危機管理マニュアルに応じて、内容の改善を図ることができた。訓練に対する意識をさらに高めていきたい。
		幼児児童生徒が、命を守る方法がわかり、適切な行動をとることができる。 (児童生徒アンケート AB100%)	90%	A	訓練や事前事後の学習を通して、自分で考え、行動できる場面が増えてきている。
		安全学習環境を整備することで、幼児児童生徒が安心して学習活動を行うことができる。 (教育活動において、ケガが元となるケガでの緊急的な対応0件)	90%	A	こまめな熱中症対策や保護者との医療的ケアの連携などを行ったことで、大きな事故やケガなどなく過ごすことができた。ヒヤリハットの情報を共有していく。
		教職員自身が、働きやすいと感じ、気持ちよく仕事を行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)	89%	B	積極的なコミュニケーションや挨拶を通じ、気持ちよく働くことができた。職員室内の声や伝え方に気を付けていく。

イ		放課後を有効に活用できる。教職員が勤務時間の中で連携しながら効率よく仕事を行うことができる。	94%	A	あらかじめ、資料を提示したり、情報機器を活用したりすることで効率よく会議ができた。
		紙等の消耗品、PC等の情報機器の適切な管理、運用がスムーズに行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)	98%	A	消耗品などいつも使えるように環境が整っていた。 情報機器の使用がスムーズに行えるようにしたい。
	聴覚障害教育のセンター的役割を積極的に発揮する	ニーズに応えた対応を行うことができる	96%	A	今後もニーズに応えた丁寧な対応を行っていく。
		外部への発信を積極的に行うことができる。 (教職員アンケート AB100%)	94%	A	昨年度と比較し、外部での発信は多くできている。更に工夫して発信できるようにしていく。
		相談への対応をスムーズに行うことができる。 (教職員アンケート AB100%) (保護者アンケート AB100%)	96%	A	今後も各関係機関と連携し、丁寧に対応していく。
		学校間での連携をはかったり、本人の実態に即した指導を行ったりすることで、通級生が安心して学びに向かうことができる。(保護者アンケート AB100%)	100%	A	今後も、連絡ノートでの情報共有や、難聴理解授業を通じ、学校、保護者との連携絵お図っていく。
	継続した教職員の向上の取り組み	教職員が、学習会や研修を通して専門性の向上を図ることができる。(教職員アンケート AB100%)	96%	A	他学部講師招聘授業や自立活動学習会が充実していた。今後も研修会の充実を図る。
		自己の向上させたい専門性について目標を掲げ、それに向けて意欲的に取り組むことができる。 (教職員、各自の専門性に関する自己目標達成率 AB100%)	92%	A	一人一人が専門性に対する課題を持ち、研修に取り組むことができた。継続して取り組んでいきたい。
		読書指導や日常生活を通して、幼児児童生徒の言語の拡充を図ることができる。 (教職員アンケート AB100%)	98%	A	言葉の掲示板や作文指導など丁寧に行ってきた。読書指導にも力を入れて取り組むことができた。言葉に対するアンテナを高くしていく。
		他者（他学部を含め）の授業を観察し、「よりよい言語指導」に基づいたアドバイスをしたり、アドバイスを受けて授業改善をしたりすることができる (教職員アンケート 100%)	96%	A	OJTや教科部会を通じ、他者の授業を参観したり、他学部との情報共有を行ったりすることで、授業改善につながった。授業の質を高められるようにしていく。

ウ	聴覚障害教育の専門性をいかした「つながる学び」による学習の向上	幼児児童生徒の実態に即した視覚的支援を活用することができる（教職員アンケート 100%）	96%	A	視覚情報（板書・資料の提示・デジタル黒板等）を活用できた。さらに効果的な活用を探っていく。
		学年や幼児児童生徒の実態に応じた指導を意識して行うことができる（教職員アンケート 100%）	96%	A	成長段階に応じ、手話表現の指導や生活場面の指導を行うことができた。実態が多様化してきているため、生活年齢のみを考慮した対応が難しくなっている。
		情報の共有を通して、幼児児童性斗の実態がわかり、授業の実践につなげることができる（教職員アンケート AB100%）	94%	A	話し合いや個別の指導計画の共有を行ったことで、実態把握につなげることができた。他学部に入る時の授業の持ち方の工夫が必要。
	社会自立に向けた地域ぐるみの教育の充実	交流や地域施設、人材の活用を行い、幼児児童生徒の学びの機会を設けること府ができる。（教職員アンケート AB100%）	98%	A	学部人材を活用し、より多くの経験ができた。つながりを持ったりすることができた。
		幼児児童生徒や保護者が、自分（子供）の課題や将来の生活や進路について考えることができる。（教職員アンケート AB100%） （保護者アンケート AB100%） （児童生徒アンケート AB100%）	98% 100% 100%	A	保護者や生徒に向けたサイン路後援会やおたよりなど、情報発信を積極的に行うことができた。更に、保護者の意識を高めていけるように工夫したい。

(2) 令和7年度取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安全・安心で、信頼差選ばれる学校	教職員や子供が、互いにつながりを感じながら、心身ともに安心した環境の中で過ごすことができる。（教職員、児童生徒アンケート 100%）	100%	A	朝の打ち合わせや学部会を通じて情報の共有が図ることに努めた。防災訓練では実態に応じ、計画的に行うことができた。次年度も継続的に指導を行う。
		教職員が、子供に対し命や身体の大切さを意識できるように指導を行うことができる。（教職員アンケート AB100%） （ヒヤリハット事案 0 件）	100%	A	ヒヤリハット事案もなく、安全に活動を行うことができた。また、食育計画を基に指導を計画的に実施することができた。次年度も重点として取り組んで行く。
		教職員が、自分の仕事に対しやりがいを感じ、積極的に取り組むことができる。（教職員アンケート AB100%）	98%	B	職員全身体制で、同じ方向性で指導にあたったことで、子供の成長を共に感じる事ができた。お互いにつながりを持ち、感謝を伝え

					合える環境づくりを心掛ける。
		教職員が、働きやすい職場環境と感じ、気持ちよく仕事を行うことができる。 (教職員アンケート A B 100%)	88%	B	データ環境が進んだことで、効率よく仕事を行うことができた。業務量の偏りの見直しや相談しやすい環境づくりを行っていく。
		学校のアピールや地域との連携が進んだと答える。 (学校運営協議会評価 AB100%) (教職員アンケート AB100%)	98%	B	ホームページの更新や、地域へのお便りの発信、新聞への投稿など積極的に行うことができた。次年度も継続的に行う。
		児童生徒が、自身の将来に向けて考えることができる。 (教職員アンケート AB100%)	98%	B	お便りの充実や先輩と語る会の実施など、考える機会を意欲的に設けた。実態に応じた指導を行っていく。
イ	聴覚障害教育のセンター的役割を發揮する	ニーズや相談への対応を行うことができる。 (教職員アンケート AB100%) (通級保護者アンケート AB100%)	100%	B	教育相談や病院との連携を通じ、ニーズに合った対応を心掛けた。次年度も、多職種連携を強化しながら対応を進めていく。
		学校が各機関と連携を図ることで通級生が安心して学びに向かうことができる。 (通級保護者アンケート AB100%)	98%	A	中学生向けの集いを実施し、生徒同士のつながりを図ることができた。次年度も計画を立て、安心して学べる環境を作る。
	教職員の専門性維持・継承に向けた組織的な研修	教職員が、学習会や研修を通して専門性の向上を図ることができる。(教職員アンケート AB100%)	98%	A	一人一聴覚授業や学部研修の充実により、学ぶ機会の充実が図られた。研修の持ち方を工夫し、専門性の向上につなげていく。
		教職員が、子供に対し言語の拡充を意識した指導ができる。 (教職員アンケート AB100%)	100%	A	子供の実態に応じ、日々言葉を意識した指導を行うことができた。今後も丁寧に扱っていく。
	障害児の特性に配慮した「わかる授業」による楽しむ学び	教職員が、子供にわかる授業に向け、工夫したり改善したりすることができる。 (教職員アンケート AB100%)	98%	B	一人一台端末や電子黒板の活用を積極的に進めることができた。今後も、ICT機器を使うことが目的ではなく、「わかる」ためのツールとしての意識を持ち、活用を進めていく。
ウ	地域資源を活用した地域ぐるみの教育の充実	居住地校交流や学校間交流、地域施設の活用を行い、子供の学びの機会を設けることができる。 (教職員アンケート AB100%)	98%	A	学部や学年の活動とのバランスや交流の持ち方を検討し、まあ日につながる交流を進めていく。

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題
令和6年度	・人権教育の推進による心の育ちを意識した指導	人権教育を推進したことで、友達の良いところを認められる児童生徒が増えた。半面、アンケート結果から、自分自身に自信を持ってない生徒の割合が多かったので、成長段階に応じた言葉がけを意識した指導を心がけていきたい。
	・不祥事根絶に向けた研修、意識向上に向けたおたよりの発行	グループでの討議や、毎月のおたよりの発行を通して、不祥事についての意識が高まった。継続的な投げかけが大切であることから、次年度以降も、個々やグループといった話し合いや振り返りの方法を工夫しながら、意識を高めていきたい。
	・聴覚障害の専門性向上に資する研修会、学習会の実施 ・OJTを活用した授業力、指導力の向上	聴覚障害に関する基礎知識を学ぶ研修会や、一人一授業を中心とした授業力向上の取り組みに加え、3～4人グループでのOJTを実践したことで学部を超えて、学びあう姿勢がみられた。次年度も実践していく。
	・外部への積極的な発信 ・地域の方々との交流	新聞社への投げかけやHPの充実を図った。地域の人から「記事を読んだよ。」「頑張っているね。」と声をかけてもらう機会が増えた。
	・通級指導や教育相談を通して地域のセンタ－的役割を推進	継続して通級生のいる学校で難聴理解授業を行ったり、訪問をしたりすることで地域の方に聴覚障害の理解を深めてもらう努力をした。病院や市町と連携し、乳幼児相談や教育相談を実施した。
令和7年度	・デフリンピックを通じての聴覚障害及び進路についての学びの充実	デフリンピックの開催を好機とし、聴覚障害者スポーツに関して知識を深めた。掲示物をはじめ、デフアスリートとの交流、デフスポーツの観戦をする中で、聴覚障害者の活躍を知り、自分もやってみたいという将来の夢につながる事ができた。
	・食育指導の充実	栄養士による食育指導や調理実習の実施等、年間計画に基づき、指導の充実に努めた、また、掲示物を工夫し、季節の食べ物や栄養素など学んだ事を確認できたり、知識を広げたりできる機会を積極的に設けることができた。
	・外部への積極的な発信 ・地域の方々との交流	ホームページの更新(70回)学校行事の新聞への投稿(14回)、地域へのお便りの発行(6回)と積極的に発信することに努めた。お便りを通じ、学校の活動に関わりたいたと、地域の住民と交流を深めることができた。
	・通級指導や教育相談を通して地域のセンタ－的役割を推進	聴覚障害のある子供が在籍する保育園、幼稚園や小、中学校からの相談に応じ、指導に対する助言等、連携することに力を入れた。指導環境の改善が図られたという感想を多数受けた。

5 教職員について

(1) 異動状況

職名 区分	本務職員											臨時・会計年度任用職員								合計
	教育職員								行政職員			本務計	教諭（任期付・臨時）	実習助手（臨時）	寄宿舎指導員（臨時）	非常勤講師（教育課程・看護）	非常勤嘱託員・非常勤労務職員	乳幼児発達支援指導員	臨時計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	事務長	主査	主事									
転出者		1		4				1	1		1	8								8
退職者													1	1	1				3	3
退職者 （再任用）				2				1				3								3
昇任者																				
転入者		1		3				1	1			6	1						1	7
新規採用者				1								1	3	1	1	5			10	11
新任者 （再任用）																				
差引増減	0	0	0	△ 2	0	0	0	△ 1	0	0	△ 1	△ 4	3	0	0	5	0	0	8	4

(2) 現員数

ア 職員の配置状況

職名	本務職員												臨時・会計年度任用職員										合計	
	教育職員							行政職員					本務計	教諭（任期付・臨時）	栄養士（臨時）	実習助手（臨時）	寄宿舎指導員（任期付・臨時）	非常勤講師（教育課程・看護）	非常勤嘱託員	スクールカウンセラー	乳幼児発達支援指導員	臨時計		
	校長	副校長	教諭	養護教諭	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	寄宿舎指導員	小計	事務長	主査	主事	小計												
区分	計	1	1	34	1	1	4	2	44	1	1	1	3	47	4	1	1	2	8	2	1	1	20	67

イ 職員の年齢

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	6	
30歳以上40歳未満	12	
40歳以上50歳未満	9	
50歳以上56歳未満	11	
56歳以上61歳未満	6	
61歳以上	3	再任用職員2人
計	47	平均年齢 44.8歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

学校全体で、つながり合い支え合ってチームで業務を行うことに努めている。学部主事を中心に「笑顔であいさつ」を心がけ、相談しやすい雰囲気づくり、教職員の小さな変化に早期に気づき皆で対応するよう努めた。

月に一度、副校長、養護教諭、保健主事、各部の代表（事務部、学部、寄宿舍）が集まり職員安全衛生委員会を実施し、毎回、下記の内容を確認し合うことで学校全体の把握・推進に努め、合わせて校長への意見具申を行った。

(ア) 各部の所属職員の健康状態（心身の調子）及び対応

(イ) 職場の安全・環境上で気付いたこと

(ウ) 今月のヒヤリハット

(エ) その他…生活習慣病等の検診の実施状況、職員健康講座の計画

また、学校経営計画書に「働きやすさ、やりがい」の項を設け、学校全体で業務の見直しや時間外勤務の短縮に努めた。

イ 健康管理状況

(ア) 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 49人
	職 員 数 49人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

(イ) 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0人
C 2		要経過観察	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	9(9)人
D 2		要経過観察	13(13)人
D 3		医 療 不 要	23(23)人
区 分 者 計			45(45)人
未区分者数			2 (2)人
合 計			47(47)人

(1) 管理区分A～C 2該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 ☐人
イ 新規採用 ☐人
ウ 自己都合による未受診 ☐人
エ その他
() ☐人

(4) 教職員の研修について

<全体研修>

	令和6年度	令和7年度
研修 主題	「主体的な確かな学びを求めて」	「一人一人の主体的な確かな学びを求めて」
	本研修主題の3年目である。3年間を通しての幼児児童生徒の変容を追い、成果と課題を明らかにした。 全体研修を年3回実施。学校全体の研修について共通理解を図ることができた。6年度は、新たにOJTに取り組み、専門性を深めたり継承したりすることができた。 学部研修では、各学部のテーマに沿った研修に取り組み、幼児児童生徒の育ちと教員の授業づくりについて確認することができた。一人一授業研究は、視点をもった事前や事後研修を活発に行う中で、研修の目的に迫ることができた。また、講師招聘研修会での学びも授業づくりに生かすこともできた。 学部公開は、お互いに授業や生活を見合い、意見や感想を交換することで、授業改善などに生かすことができた。また、専門性を意識したり高めたりするための取り組みとしては有効だった。	本テーマ1年目である。 全体研修では、計画の確認(5月)と、まとめの確認(3月)を全員で行った。その他、各学部の講師招聘研修会では、学校全体で授業を参観したり事後研修や講演会に参加したりする形をつくった。それによって、多くの学びを得ることができた。 学部公開では、1学部2回の公開日を設け実施した。見る側も見られる側も他学部を知ったり指摘を受けたりする中で、授業改善や言語環境の改善などにつなげることができた。 夏の講演会では、□□□□先生をお招きし、「認知特性を生かした授業づくり」について学んだ。また、浜松校からの配信講演では、□□先生(東北福祉大学教授)から、聴覚障害者の自立に関する話を聞くことができた。 外部研修では、県内外の豊学校や沼津市の

	外部研修では、県内外の聾学校を中心に授業参観をしたり講演を聞いたりした。学んだことの報告を共有することで、本校の授業や研究に生かすことができた。	授業を参観したり講演会に参加をしたりした。個人が学んだことを全員の教員で共有することで、各教員の授業や研修に生かすことができた。 上記の研修や研修を経て、教員の専門性の向上や、幼児児童生徒の育ちが見られた。
--	---	---

ア 幼稚部

	令和6年度	令和7年度
研修 テーマ	一人一人の気持ちが動く授業づくり	一人一人の気持ちが動く授業づくり ～育てたい子供の姿に近付くために～
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題
	子供の気持ちが動くとはどういうものか、子供の気持ちを動かすためにはどうしたらよいのかを考えて授業づくり（導入、展開、次回予告など）を行うことができた。幼稚部の教員間で同じ視点で授業を振り返り、改善につなげることができた。 実態や目指す姿、検査結果などについて3年間継続して共通理解を図ってきたことで、学級の担任だけではなく幼稚部全体として幼児一人一人の課題や目標を意識した関わりが継続的にできた。 研究授業の事前事後研修やエピソード記録の共有をとおして、幼稚部の授業づくりの研修を深めることができた。特に研究授業のビデオ分析を行ったことで、授業時には気付かなかった幼児の言動や授業者の言動、相互のやり取りなどについて丁寧に振り返ったり、支援や手立て、関わりに対する改善案について話し合ったりすることができた。 3年間分の幼児の実態と育てたい子供像やエピソード記録、授業研究を基に一人一人の気持ちを動かす指導や支援、手立てを整理したことで、教員の意識や幼児との関わり方に変容が見られ、幼児が主体的に取り組もうとする姿が増えてきた。	学部全体で1～4の視点ごとに個別の実態と目標を把握していたことで、実態に合わせたより有効な「気持ちを動かす」ための手立てを意識して授業づくりに取り組むことができた。その結果、友達や教員と関わって楽しく遊ぶ子供の姿が多く見られるようになった。 ビデオ分析では授業中に見逃していた子供のよいあらわれについて気づき、授業改善につなげることができた。 3つの視点に整理した手立ての一覧表を作成した。 助言者の指導を受け、全体の事後研修の際に授業のポイントとなる視点を1つに絞り、子供のよい表れと有効であった手立てについて話し合ったり、より有効な手立てについて検討したりすることができた。 一方で、子供の応答に対する次のやり取りを想定した教員の関わり方への課題が見えた。また、授業中に子供のよい表れに気づき、子供の行動に対して褒めたり、認めたりする言葉掛けを意識して取り組んでいきたい。さらに、3つの視点に整理した「一人一人の気持ちを動かす指導や支援、手立て」の一覧表を、実際に活用して授業に生かしていきたい。

イ 小学部

	令和6年度	令和7年度
研修 テーマ	確実な『分かった』を目指して	児童が主体的に学ぶ授業づくり ～豊かな言語活動をととして～
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題

小グループで分かれて、「確実に分かった姿」をどう捉え、そのための手立てはどうあるべきかについて話し合った。また、一人一聴覚授業研究の事前・事後研修では、確実に分かった姿を視点として協議を行った。このように「分かった姿」に焦点を当て検討を重ねたことで、授業の質的向上につながった。 また、経験年数や専門性に違いのある教員が互いに授業を見て語る機会を多く持ったことで、実践を共有することができ、一人一人の教員の授業作りの視点が明確になった。「子供が分かる」ことを意識した、板書、発問や主発問、ワークシートやノート、目当ての提示のタイミング、必然性のある目当て、目当てとまとめの関係、動作化、単元計画の工夫、言葉や事柄の種まき、教科横断的な視点などである。 児童は4月に比べると、聞くこと・話すこと・読むことに関する国語力が個人差はあるものの向上している。しかし、教員とのやり取りを通した「分かった」の段階に留まっており、自力で考える姿の定着や姿はまだ少ない。書かれたものに自ら向かおうとする姿勢を、教科とそれ以外の場面の両面から育んでいきたい。児童がより主体的に学習に向かう姿を目指し研修を進めていきたい。	授業研究において児童のつまずきに視点を当てた検討を重ねたことで、個々の児童にとってどのような支援が有効であるのかを確認することができた。また、それぞれの教員が今後の授業づくりにつながる改善点を整理したり、講師招聘研修の助言を受けて授業づくりで大切にしたいことを明確化したりして授業改善を繰り返したことで、児童の主体的な学びにつながった。授業実践において、下学年対応の児童に対する指導事例も一部まとめ共有することができた。これより、個人差はあるものの自分で考えて発言しようとする姿や自分の言葉で分かったことを伝えようとする児童の姿が見られた。 児童の実態把握からつまずきを予測し支援方法を考える授業力は高まってきたが、客観的テスト以外の方法を使って実態把握をすることには、課題が残った。特に生活の中の思考やその様子の見取りは今後の課題である。また授業内においてどの程度分かっているか確認をしながら展開する力も付けていきたい。
--	---

ウ 中学部

	令和6年度	令和7年度
研修 テーマ	主体的に学び表現できる生徒を育てる授業づくり	生徒の思考過程に着目した授業づくり
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題

授業設計アイデアシートの活用に「根拠を持って説明できる」という生徒の姿を加えることで「考える材料」の精選ができた。そして、生徒がどのように「考える材料」を活用しているのか、また、教員の指導計画との差は何かなどを分析することで、生徒の思考過程を考えて「考える材料」を提示することや働きかけをすることが大切であるということが共有できた。 さらに、ビデオ研修をすることで授業改善の具体的な内容が見えてきた。特に思考を深めたいときの間や言葉掛けのタイミングの共通理解を行うことで、教科が異なっても同じように意識していくことができ、生徒がじっくりと思考したり、視点や視野を広げたりする姿につながった。 「対話と思考」の場面を充実させるためには生徒に合った「考える材料」を吟味することが必要である。「何に着目するのか」「この課題は何を求めているのか」ということが生徒に伝わるように教員が生徒の実態に合わせた働き掛けや発問、言葉の精選をしていくことが課題である。	成果 ・各教科の担当と生徒の情報を共有することで多角的な視点で情報を整理することができ、授業改善に役立てることができた。 ・デジタルツールを使うことで、生徒のつまづきをリアルタイムで確認することができた。また、教員が提示したい資料を拡大化して焦点化したり、前時に使った図や式などを再提示したりすることで生徒の思考を促すことができた。 課題 ・生徒の実態によっては「考える材料」の工夫だけでは対応ができない場合がある。個々の思考過程に応じた支援が必要になってくるということが分かった。 ・デジタルツールをさらに有効に使うために板書や資料の提示の仕方などのアナログツールの使い方を整理し、授業づくりに取り入れていく必要があることが分かった。
---	--

エ 高等部

	令和6年度	令和7年度
研修 テーマ	自己調整力が身に付く授業づくり	自己実現に必要な力を身に付ける授業づくり
評価	実績（成果）と課題	実績（成果）と課題

	生徒の発達段階を細分的に理解したり、思考の流れや特性を押さえたりすることで、困難さの原因を分析する実態把握の視点を教員間で共通理解することができた。 評価規準を設定した授業を実践することで、活動内容や目標に達成するための支援を考えやすくなり、具体的なキーワードなどに注目して生徒の表れを見とりやすくなった。 評価規準を設定し生徒に共有することで生徒と教員と生徒が具体的な授業の目標を共有し、授業づくり・授業実践・評価・改善のサイクルにおける視点を教員間で共通理解することができた。 聴覚障害と発達障害を併せ持つ生徒が増加する傾向にある中、学習指導要領に示される学習内容および目標と生徒の実態に差があり、評価規準の設定が難しい。また、教科によっては同じ指導教科の教員同士で、教科指導について相談する機会がもてないことが課題である。	個々の教員が、授業実践を通して見いだした有効な手立てを「自立に向けた支援方法」として集約し、整理できたことは、学部全体で一貫した指導を行う土台となった。 キャリア発達の視点で実態把握を行い、強みや課題に応じた丁寧な指導を重ねたことで、生徒が主体的に学ぶ姿を引き出すことができた。 学部公開等での客観的な意見により、視覚的支援や手話表現の統一など、学部全体で大切にすべき指導のあり方を共有することができた。 今後は、整理した「支援方法」を日々の授業で生かし、教員間の話し合いを通して内容をさらに更新・拡充していく。また、言葉では共有しきれない指導のコツを動画記録等で視覚的に伝え合う仕組み作りや、生徒自身が変容を客観的に捉える自己評価の支援についても検討を深める必要がある。 さらに、評価を授業改善に反映させる流れを作り、学校での学びを将来の社会参加へつなげる取り組みを、次年度の重点項目として研修を進めていきたい。
--	--	--

オ 寄宿舎

	令和6年度	令和7年度
研修 テーマ	児童生徒の強みを生かす支援の工夫	一人一人の生活力の向上を目指して～舎生活を通して～
評価	実績（成果）と課題 3年間の研修を通し、指導員の関わりや支援の工夫により、話し合いや自治活動への取組など、今この集団の中で自分にできることを考え、自主的に役割を行うなど、主体的な姿が見られていた。 行事や清掃奉仕活動の中で小さな助け合いがあり、「手伝ってくれて嬉しかった」と伝え合うことができ、仲間への思いやりが見られた。また、障害特性についての学びを通して、児童生徒が自分で判断して行動できる仕組みづくりと環境の設定を試行錯誤しながら続けている。例えば環境設定では、視覚的支援と並行して、話し合いのルール作りをし、定型として繰り返し行うことで、一人一人が発言できる話し合い活動になった。 また、掃除時間を朝から夕方に日課変更をし、苦手な活動もできるような工夫を行っ	実績（成果）と課題 昨年度より活用していた実態共有シートを「基本的生活習慣」「集団参加」「暮らしの技術」の3領域に再編し、項目を整理した。また、過去3年間の「生活の記録」を基に各領域・項目別に実態を整理し反映したことで、児童生徒の実態を具体的に把握しやすくなり、指導員間の共通理解も図りやすくなった。 講師招聘研修で得た知識や視点を踏まえ、目標達成表の活用方法を見直し、改善することができた。 舎生の目標を明確化するために、具体的な指導の場面設定を行ったことで、目標に対する見方や考え方の共通理解が進み、指導の方

	た。見通しが持て、児童生徒が自分で判断できるような視覚的支援の工夫が増えた。 課題：舎生が自分自身のことを振り返り、自己を向上させることにつながらない様子があつた。舎生が意欲的になる伝え方の工夫や、言葉の精選について舎研修で紹介する等、機会を設けて学び続けたい。3年間を通して主体的姿が見られてはいるが、自分自身の成長に目を向け、できることが増える喜びを実感できるような支援の工夫をして、児童生徒一人一人の生活力の向上、主体的な姿につなげていきたい。	向性を共有しやすくなった。その結果、舎生活の中で3領域における自主的な姿勢が育まれてきており生活力の向上につながってきている。 指導員間で舎生のあらわれの共有や評価に偏りが見られた。全指導員で評価しやすいよう、意見交換の場や指導・支援の設定方法について再検討する必要がある。 目標達成表を活用し、舎生と対話をしながら目標設定を行ったが、間違つた言葉や表記が多く、言葉（話す・書く）の指導についての確認が必要である。
--	---	--

カ 地域支援

	令和6年度	
研修 テーマ	・通級生のコミュニケーション力を付けるための指導・支援 ―コミュニケーションストラテジーの視点から―（通級指導教室）	・通級生のやりたい気持ちが高まる授業づくり（通級指導教室） ・通じ合いを楽しめる親子を目指して（乳幼児教室）
評価	実績（成果）と課題	
	【通級教室】 令和4年度から教員がストラテジーの活用段階を学んだことで、ストラテジーの活用について系統立てて指導することができた。また、講師招聘研修などを通して、ストラテジーの活用に関する技術に加えて、活用する意義や意味の分かる指導が重要だと分かった。 ストラテジーの活用は、発達段階と大きく関わっていることが考えられるため、児童生徒の発達段階を見極める必要がある。ストラテジーを活用する意義や意味についても引き続き気付けるようにしていきたい。通級指導教室だけの様子で評価するのではなく、在籍校とも連携を取りながら様々な場所での評価が必要であることが課題である。 【乳幼児教室】 今年度は、ビデオ分析に加えて、家庭訪問と園訪問も充実させ、学校以外の生活での保護者や保育士の関わりにも広げ、気づきが多く得られた。教員の子供への関わり方がスキルアップしたことで、子供が自分の気持ちを伝えようとする意欲や態度が育ち、自分ができる表現方法で思いを伝えることができるようになってきた。また、保護者は、気持ちや	【通級教室】 年度当初に「目標シート」を作成したことで、通級生が「何を学びたいか」を教員が意識できるようになった。また、シートをもとに通級生が教員と話すことで、自分が学びたいことが明らかになり、自分から進んで取り組もうとする姿勢が見られるようになった。「振り返りシート」を活用したことで、通級生が学習の成果と課題をその都度確認する習慣が付き、教員が次時の授業構想に生かすことができた。3つの領域に分けて指導実践の整理をすることで、教員間で指導内容の共有をすることができた。 課題として得意・不得意や発達段階に大きな幅があるため、一人一人の実態をよりの確に把握し指導内容を柔軟に調整する力が求められる。振り返りシートを記入する際に低学年などは、口頭での確認やイラスト入りの選択式シートを用意するなど、より実態に合わせた形式の見直しが必要である。通級生の「できた」という実感と教員の評価が異なる場合があつた。指導実践の共有はできたが、指導の意図や教材の活用方法、指導の仕方などについて十分に協議を深めることができず課題が残った。 【乳幼児教室】

	行動の言語化の大切さが分かって努力したり、子供が分かる表現を使って伝えるようになったりと、意識が高まり実践にも繋がった。その結果、親子でやりとりを楽しめる場面（通じ合い）が増えた。 一方で、ビデオ分析を行う中で、口声模倣や行動の言語化の不足が課題に上がった。活動の中で、聞かせる言葉や口声模倣を促す言葉を選び、子供に合った表現方法を考えていきたい。子供の気持ちや行動を受け止めるだけでなく、それを言語化していけるように意識を高めていきたい。関わり方のステップアップは、これからも続く課題である。	教員が子供の気持ちに共感し、言語化することで、保護者も子供の気持ちを受け止め理解を深めながら関わるできるようになってきた。子供も保護者に安心して気持ちを伝える場面が見られた。親子が通じ合いを楽しんでいる姿を見る機会が増えた。ビデオ分析により、子供の実態や見逃していた子供の視線や動きにも改めて気づき、教員の関わり方も客観視できた。 子供に寄り添った指導が、その時々でできていなかった。また、子供が音声だけでなく、表情や身振りをを用いて自分の思いを表しているにもかかわらず、見逃していたこともあった。「通じ合いを楽しめる親子」を目指して、教員の言葉掛け、対応力（リアクション力）のレベルアップを図りながら、子供と接していきたい。遊びの環境を整えた中で、子供の気持ちの変化も捉えながら、子供が表す気持ちや行動を言語化していきたい。
--	---	---

<教員研修会・講演会の開催>

- ・職員の資質向上を図るため、研修会、講演会を開催（令和7年度）

区 分	令和7年度実施内容
新任初任者学習会	・R7.4.2 事務手続き及び校内環境（事務） ・R7.4.3 きこえと補聴器（自立活動） ・R7.4.4 防災機器（防災委員会） *その他、初任者研修の一環として、各学部主事、進路・地域支援課長等による講話を実施。
自立学習会	・グループ別研修 年間3回／5月、7月、9月（基礎、手話、発音、きこえと補聴手段） ・R7.7.24 難聴類似体験 ・R7.7.25 「補聴器について」
自立活動研修	・R7.4.2 学部ごとのメディア研修 ・R7.4.22 全体研修会「本校のコミュニケーション手段について」
保健体育課研修会	・R7.6.5 心肺蘇生法(普通救命講習Ⅱ)講習会
講演会・講習会等	・R7.8.22 はごろも「夢」講演会 「聴覚障害教育の専門性を考える ～各段階の指導と一貫性のある教育～」 □□ □□先生
	・R7.7.29 人権研修 ・R7.7.29 交通安全講習会（外部講師）

6 防災対策について

＜令和7年度＞

(1) 学校・寄宿舎における訓練

聴覚障害幼児児童生徒の災害時（火事、地震等）における人的被害を最小限に抑え、安全な生活を送ることを目的に、様々な条件を設定（想定）した避難訓練・総合防災訓練及び寄宿舎防災訓練等を実施する。

音や声による警報や指示が伝わりにくいという特性を踏まえ、視覚情報も加えて、分かりやすく、かつ、確実に伝える方法を工夫して行う。教職員の主体的な動きや連携の向上を図る。

ア 避難学習・防災訓練

実施日	目的・内容
R7.4.22	第1回避難訓練（地震・津波） *地震発生時・津波警報発令時の避難経路を覚える（確認する）。（子供） *地震発生時の情報伝達の仕方・避難誘導の仕方について確認する。（教師）
R7.6.16	第2回避難訓練（火災・消防書連携） *火災発生時の避難経路を覚える。（子供） *火災発生時の情報伝達の仕方、避難誘導の仕方を確認する。（教師）
R7.9.8	第3避難訓練（地震 予告なし） *情報を適切にとり、指示にしたがって避難する。（子供） *子供の命を守る方法を判断し、誘導、避難する。（教師）
R7.11.14	第4回避難訓練（火災・引き渡し訓練） *火災発生時の避難経路を覚える。（子供） *火災発生時の情報伝達の仕方、待機、引き渡しの方法を覚える。（教師）

イ 防災・防犯研修・防災班会議（職員）

実施日	目的・内容
R7.4.4 防災機器説明会	防災設備（防災扉、フラッシュライト等）の作動方法について研修。
R7.4.7 防災班会議Ⅰ	各防災班の役割分担の確認、役割遂行における課題の洗い出しと対応を検討
R7.6.20 不審者対応訓練	沼津署生活安全課の協力を得て、不審者が校内に侵入した際の対応について演習から問題点を洗い出し、適切な行動について助言してもらった。
R7.7.28 防災班会議Ⅱ	各防災班の役割分担の確認、役割遂行における課題の洗い出しと対応を検討
R7.11.13・14 防災班会議ⅢⅣ	第4回防災訓練に向けた準備及び、当日の活動の振り返り
R8.1.28 防災班会議Ⅴ	次年度に向け、各防災班の役割・行動について、発災前の事前準備（減災発災時の役割行動）に検討

ウ 寄宿舍防災訓練

実施日	目的・内容
R7.4.16	火災発生時の避難方法、消火栓・消火器・AEDの設置場所、発災時の持ち物
R7.7.15	地震発生時の避難方法、学校、居住地周辺のハザードマップの確認
R7.10.22	予告なし火災訓練、火災発生時の避難方法を確認、整列・人数確認の練習
R7.11.25	火災発生時の避難方法を再確認、非常持ち出し袋の確認
R8 2.2	不審者対応訓練（侵入想定）、不審者侵入時の避難方法再確認、犯罪多発場所の見分け方

(2) 安全点検

防災責任区域を割り振り、毎月末日に安全点検を行い、危険箇所をチェックする。

チェック個所は、速やかに修理、補修を行う。

月1回、発電機の使用点検を行っている。

防災備品については、防災班ごと点検を行い、夏休みには防災トイレなどの実際に建てて使用方法を確認している。

(3) 地域防災との連携

地域防災担当と連携を密にし避難所運営、避難時の児童生徒の動き等を共通理解している。

R7.4.23 令和7年度第五地区東・西連合自治会自主防災会会議

R7.9.1 地域防災訓練（避難のみ）

R7.10.29 防災教育推進のための連絡協議会

R7.12.7 沼津市地域防災訓練

沼津市危機管理課避難地指定のための看板設置

沼津市危機管理課避難地指定のための協議

非常用トイレの説明、

7 学校開放について

地域に開かれた学校を目指し施設開放委員会を設置し、体育館、運動場、遊戯室等の施設を児童・生徒の活用がない場合に限り、登録団体及び周辺住民に開放した。

<令和6年度実績>

施設名	利用種目	利用日数	利用人数	利用者負担金 (電気料)
体育館	バレーボール、卓球、障害者スポーツ大会、討論研究会、バスケットボール	48日	1,075人	23,975円
運動場	グランドゴルフ、サッカー、20歳を祝う会	47日	465人	0円
遊戯室	討論研究会	1日	42人	3,987円

合 計		96日	1,582人	27,962円
-----	--	-----	--------	---------

<令和7年度実績>

(令和8年2月28日現在)

施設名	利用種目	利用日数	利用人数	利用者負担金 (電気料)
体育館	バレーボール、卓球、交流会、バスケットボール	32日	548人	21,594円
運動場	グランドゴルフ、サッカー	33日	252人	0円
遊戯室	20歳を祝う会	1日	10人	30円
合 計		66日	810人	21,624円

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第78条、第79条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第1条、第2条、第3条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第23条、第27条） 学校図書館法（第3条、第4条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県立学校管理規則 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱

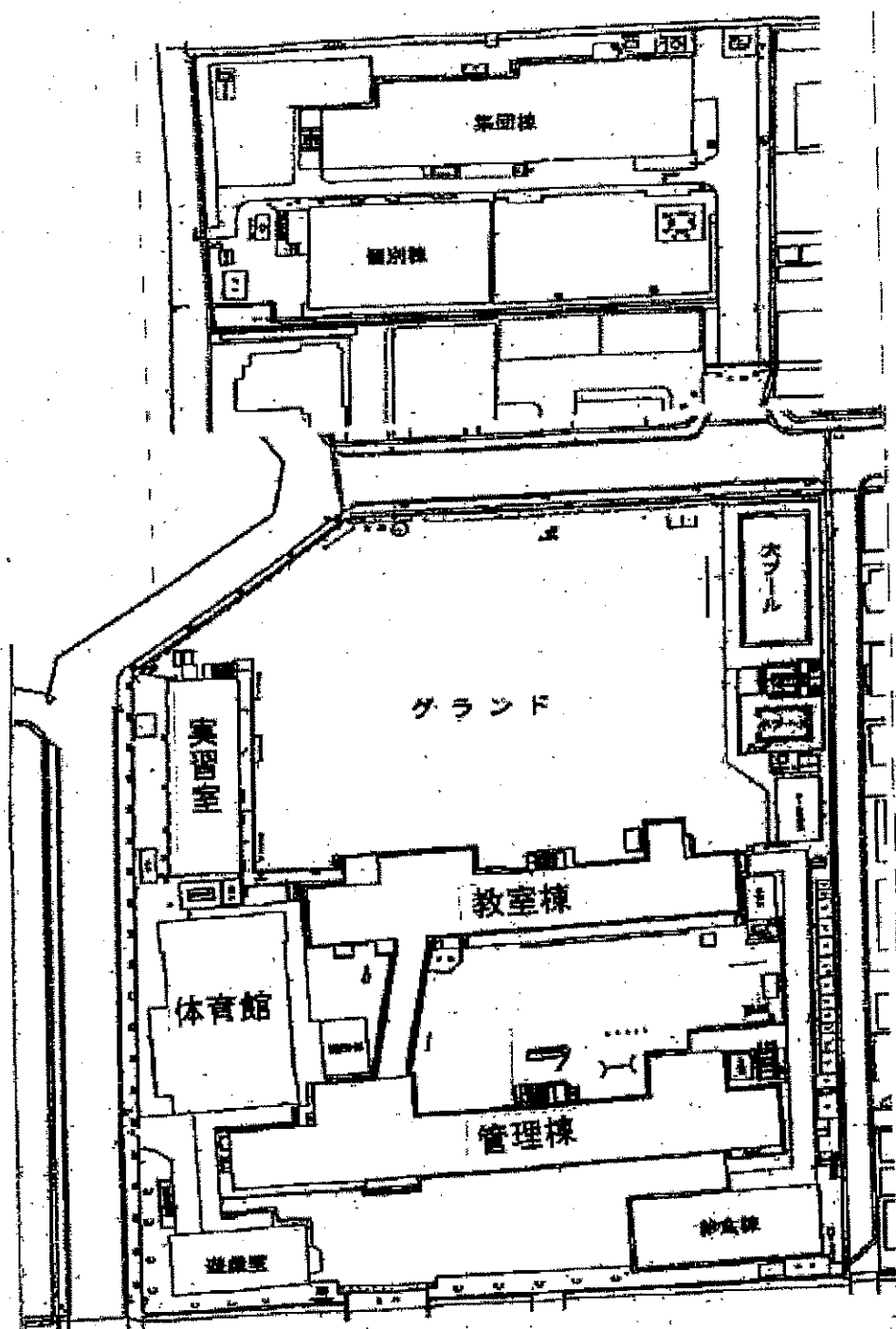
学 校 施 設 の 概 要

(令和8年2月28日現在)

1 面積及び所有区分

区 分		面 積	所 有 内 訳			摘 要
			県 有	国 有	P T A 有	
学 校 敷 地		m ² 14,202.68	m ² 14,202.68	m ²	m ²	
内 訳	校 舎 敷 地	8,803.31	8,803.31			
	運 動 場 敷 地	2,502.99	2,502.99			
	寄 宿 舎 敷 地	2,896.38	2,896.38			
校 舎	建	1,762.16	建 1,762.16			
	延	5,140.34	延 5,140.34			
体 育 館	建	594.97	建 594.97			
	延	525.27	延 525.27			
そ の 他 の 建 物	建	990.61	建 980.89		建 9.72	
	延	995.35	延 985.63		延 9.72	
寄 宿 舎	建	845.04	建 845.04			
	延	1,827.54	延 1,827.54			
プ ー ル		484.71	484.71			大プール 20m*8m 小プール 8m*4.5m

2 配置・規模等
(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	14,202.68㎡	5,140.34㎡	2,502.99㎡
県平均	19,266.88㎡	6,361.36㎡	5,302.07㎡

在 籍 生 徒 調

(令和8年2月28日現在)

学年	学部別 区 分	幼 稚 部				小 学 部				中 学 部				高 等 部				合 計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
1年 (2歳)	入学者		2	0	2		0	0	0		0	1	1	16	1	0	1		3	1	4
	増 加				0				0				0				0		0	0	0
	減 少				0				0				0				0		0	0	0
	現 在		2	0	2		0	0	0		0	1	1		1	0	1		3	1	4
2年 (3歳)	入学者		2	1	3		0	1	1		2	1	3	16	0	1	1		4	4	8
	増 加				0				0				0				0		0	0	0
	減 少		1	1	2				0				0				0		1	1	2
	2年(3歳)時当初		1	0	1		0	1	1		2	1	3		0	1	1		3	3	6
	増 加				0				0				0				0		0	0	0
	減 少				0				0				0				0		0	0	0
	現 在		1	0	1		0	1	1		2	1	3		0	1	1		3	3	6
3年 (4歳)	入学者		2	3	5		0	3	3		1	0	1	16	0	3	3		3	9	12
	増 加				0				0				0				0		0	0	0
	減 少		0	0	0				0		1		1				0		1	0	1
	2年(3歳)時当初		2	3	5		0	3	3		0	0	0		0	3	3		2	9	11
	増 加				0				0				0				0		0	0	0
	減 少		1	1	2			1	1				0				0		1	2	3
	3年(4歳)時当初		1	2	3		0	2	2		0	0	0		0	3	3		1	7	8
	増 加				0				0				0				0		0	0	0
	減 少				0				0				0				0		0	0	0
	現 在		1	2	3		0	2	2		0	0	0		0	3	3		1	7	8
小 計			4	2	6		0	3	3		2	2	4	48	1	4	5		7	11	18

在 籍 生 徒 調

(令和8年2月28日現在)

学年	学部別 区 分	幼 稚 部				小 学 部				中 学 部				高 等 部				合 計			
		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
4年 (5歳)	入学者		5	2	7		1	3	4										6	5	11
	増 加				0				0										0	0	0
	減 少		3	1	4				0										3	1	4
	2年(3歳)時当初		2	1	3		1	3	4										3	4	7
	増 加				0				0										0	0	0
	減 少				0			1	1										0	1	1
	3年(4歳)時当初		2	1	3		1	2	3										3	3	6
	増 加			1	1				0										0	1	1
	減 少				0				0										0	0	0
	4年(5歳)時当初		2	2	4		1	2	3										3	4	7
	増 加				0				0										0	0	0
5年	減 少				0				0										0	0	0
	2年時当初						0	1	1										0	1	1
	増 加								0										0	0	0
	減 少								0										0	0	0
	3年時当初						0	1	1										0	1	1
	増 加								0										0	0	0
	減 少								0										0	0	0
	4年時当初						0	1	1										0	1	1
	増 加								0										0	0	0
	減 少								0										0	0	0
	5年時当初						0	1	1										0	1	1
	増 加								0										0	0	0
	減 少								0										0	0	0
	現 在						0	1	1										0	1	1
小 計			2	2	4		1	3	4										3	5	8

在 籍 生 徒 調

(令和8年2月28日現在)

学年	区 分	学部別	幼 稚 部				小 学 部				中 学 部				高 等 部				合 計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
6 年	入 学 者							0	0	0										0	0	0
	増 加									0										0	0	0
	減 少									0										0	0	0
	2年時当初							0	0	0										0	0	0
	増 加									0										0	0	0
	減 少									0										0	0	0
	3年時当初							0	0	0										0	0	0
	増 加									0										0	0	0
	減 少									0										0	0	0
	4年時当初							0	0	0										0	0	0
	増 加									0										0	0	0
	減 少									0										0	0	0
	5年時当初							0	0	0										0	0	0
	増 加									0										0	0	0
	減 少									0										0	0	0
	6年時当初							0	0	0										0	0	0
	増 加									0										0	0	0
	減 少									0										0	0	0
	現 在							0	0	0										0	0	0
	小 計							0	0	0										0	0	0
	合 計			6	4	10		1	6	7		2	2	4	48	1	4	5		10	16	26

在 籍 生 徒 調 (高等部学科別内訳)

(令和8年2月28日現在)

学年	学区	学科別	生 産 応 用 科				特 進 技 能 科				普 通 科				合 計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	合計
1 年	入 学 者		8	1	0	1	8	0	0	0					16	1	0	1
	増 加					0				0						0	0	0
	減 少					0				0						0	0	0
	現 在			1	0	1		0	0	0						1	0	1
2 年	入 学 者		8	0	0	0	8	0	1	1					16	0	1	1
	増 加					0				0						0	0	0
	減 少					0				0						0	0	0
	2年時当初			0	0	0		0	1	1						0	1	1
	増 加					0				0						0	0	0
	減 少					0				0						0	0	0
	現 在			0	0	0		0	1	1						0	1	1
3 年	入 学 者		8	0	1	1	8	0	2	2					16	0	3	3
	増 加					0				0						0	0	0
	減 少					0				0						0	0	0
	2年時当初			0	1	1		0	2	2						0	3	3
	増 加					0				0						0	0	0
	減 少					0				0						0	0	0
	3年時当初			0	1	1		0	2	2						0	3	3
	増 加					0				0						0	0	0
	減 少					0				0						0	0	0
	現 在			0	1	1		0	2	2						0	3	3
合 計			24	1	1	2	24	0	3	3					48	1	4	5

入学志願者及び入学者数調

区 分 学 科 別		4 年度				5 年度				6 年度				7 年度				8 年度			
		本 科			専 攻	本 科			専 攻	本 科			専 攻	本 科			専 攻				
		生産応 用科	特進技 能科	計		生産応 用科	特進技 能科	計		生産応 用科	特進技 能科	計		生産応 用科	特進技 能科	計		生産応 用科	特進技 能科	計	
生徒定員 (A)		8	8	16		8	8	16		8	8	16		8	8	16		8	8	16	
募集者数 (B)		8	8	16		8	8	16		8	8	16		8	8	16		8	8	16	
志願者数	男	0	2	2		0	0	0		0	0	0		1	0	1		1	2	3	
	女	0	0	0		1	2	3		0	1	1		0	0	0		0	2	2	
	計 (C)	0	2	2		1	2	3		0	1	1		1	0	1		1	4	5	
受検者数	男	0	2	2		0	0	0		0	0	0		1	0	1		1	2	3	
	女	0	0	0		1	2	3		0	1	1		0	0	0		0	2	2	
	計 (D)	0	2	2		1	2	3		0	1	1		1	0	1		1	4	5	
合格者数	男	0	2	2		0	0	0		0	0	0		1	0	1		1	2	3	
	女	0	0	0		1	2	3		0	1	1		0	0	0		0	2	2	
	計 (E)	0	2	2		1	2	3		0	1	1		1	0	1		1	4	5	
志願倍率 (C) / (B)		0.00	0.25	0.13		0.13	0.25	0.19		0.00	0.13	0.06		0.13	0.00	0.06		0.13	0.50	0.31	
受検倍率 (D) / (B)		0.00	0.25	0.13		0.13	0.25	0.19		0.00	0.13	0.06		0.13	0.00	0.06		0.13	0.50	0.31	
入学者数	男	0	2	2		0	0	0		0	0	0		1	0	1		1	2	3	
	女	0	0	0		1	2	3		0	1	1		0	0	0		0	2	2	
	計 (F)	0	2	2		1	2	3		0	1	1		1	0	1		1	4	5	
充足率 (F) / (A)		0.00	0.25	0.13		0.13	0.25	0.19		0.00	0.13	0.06		0.13	0.00	0.06		0.13	0.50	0.31	

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部					
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職			2		2
上 記 以 外 ※			1		1
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業生総数)			3		3

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			1		1
(うち就労系支援事業利用者)			(1)		(1)
医療機関					
計			1		1

生 徒 の 状 況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和8年2月28日現在) (単位:人)

市町名	静岡市	浜松市	沼津市	三島市	富士宮市	長泉町	富士市	御殿場市	小山町
生徒数	0	1	10	0	1	1	2	2	1
構成比%	0.0	3.8	38.5	0.0	3.8	3.8	7.7	7.7	3.8
市町名	下田市	掛川市	裾野市	函南町	清水町	伊東市			
生徒数	0	1	3	1	2	1			
構成比%	0.0	3.8	11.5	3.8	7.7	3.8	0.0	0.0	0.0
市町名									合計
生徒数									26
構成比%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

(2) 通学方法

(令和8年2月28日現在) (単位:人)

区分	徒 歩	自家用車	鉄道	バス	自転車
生徒数	1	17	2	2	0
構成比%	3.8	65.4	7.7	7.7	0.0
区分	自家用車 鉄道	自家用車 バス	鉄道 バス	自家用車 鉄道・バス	合計
生徒数	3	1	0	0	26
構成比%	11.5	3.8	0.0	0.0	100.0

2 部(クラブ)の加入状況

(令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分	中学部			高等部			合 計
	運動部	文化部	計	運動部	文化部	計	
部(クラブ)数	2	0	2	2	1	3	5
男 子	2	0	2	1	0	1	3
女 子	2	0	2	2	2	4	6
計	4	0	4	3	2	5	9
構成比%	100.0	0.0	100.0	60.0	40.0	100.0	100.0

3 障害別児童生徒数

(令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合 計	学級数
幼稚園部 合 計	単一障害	2	1	3	4			10	2
	-							0	0
	-							0	0
	計	2	1	3	4			10	2
小学部 合 計	単一障害		1	1	2	1		5	4
	重複障害			1	1			2	1
	肢体重複							0	0
	計	0	1	2	3	1	0	7	5
中学部 合 計	単一障害		1					1	1
	重複障害	1	2					3	1
	肢体重複							0	0
	計	1	3	0				4	2
高等部 合 計	単一障害	1	1	3				5	4
	重複障害							0	0
	肢体重複							0	0
	計	1	1	3				5	4

4 起因疾患別児童生徒数

(令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分	ワーデン ブルク 症候群	ゴールデ ンアー 症候群	ベント レット 症候群	骨形成不 全	ソトス 症候群	先天性 サイトメ ガロ	不 明	計
幼稚園部							10	10
小学部							7	7
中学部							4	4
高等部							5	5
計	0	0	0	0	0	0	26	26

特別支援学校における生産物売払調

令和7年度

(令和8年2月28日現在)

	主な生産品目			
令和7年度	<手芸品・工作物> ハーバリウムボールペン、キーホルダー、髪留め、バレッタ <農作物・園芸品> かぶ、大根、白菜、ポップコーン、水菜、ジャガイモ、ほうれん草、カリフラワー、人参、ミニトマト、ナス、きゅうり、インゲン			
	① 売払金額	70,550 円	② 前年度との差額	△42,900 円
令和6年度	<手芸品・工作物> キーホルダー、ハーバリウムボールペン、髪留め、バレッタ、ハーバリウムディフューザー <農作物・園芸品> カリフラワー、ロマネスコ、かぶ、水菜、大根、茎ブロッコリー、人参、ラディッシュ、スイスチャード、さつまいも、ナス、ししとう、ミニトマト、オクラ、マリーゴールド(苗)			
	① 売払金額	113,450 円	② 前年度との差額	△6,900 円
令和5年度	<手芸品・工作物> ハーバリウムボールペン、キーホルダー、髪留め、ハーバリウムディフューザー <農作物・園芸品> 花の苗、小松菜、ブロッコリー、カリフラワー、ロマネスコ、人参、ほうれん草、かぶ、茎ブロッコリー、スイスチャード、大根、ナス、バジル、きゅうり、インゲン、オクラ、大葉苗			
	① 売払金額	120,350 円	② 前年度との差額	86,950 円

* 過去3年分を記載すること。

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A 円	収 入 済 額	
		納 期 内 B 円	納 期 後 C 円
款 08使用料及び手数料	15,000	15,000	0
項 01使用料	13,500	13,500	0
目 09教育使用料	13,500	13,500	0
08庁舎等使用料	13,500	13,500	0
項 02手数料	1,500	1,500	0
目 07教育手数料	1,500	1,500	0
02証明書発行手数料	1,500	1,500	0
款 10財産収入	113,450	113,450	0
項 02財産売払収入	113,450	113,450	0
目 03生産物売払収入	113,450	113,450	0
07学校生産物売払収入	113,450	113,450	0
款 14諸収入	832,459	832,459	0
項 07雑入	832,459	832,459	0
目 02雑入	832,459	832,459	0
87保険料負担金	802,949	802,949	0
90雑収	29,510	29,510	0
雑収	26,510	26,510	0
古新聞・雑誌	3,000	3,000	0
計	960,909	960,909	0

県立特別支援校 沼津聴覚特支

(令和 6年度)

2

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A 円	収 入 済 額	
		納 期 内 B 円	納 期 後 C 円
款 08使用料及び手数料	13,800	1,800	12,000
項 01使用料	13,500	1,500	12,000
目 10教育使用料	13,500	1,500	12,000
08庁舎等使用料	13,500	1,500	12,000
項 02手数料	300	300	0
目 09教育手数料	300	300	0
02証明書発行手数料	300	300	0
款 10財産収入	70,550	70,550	0
項 02財産売払収入	70,550	70,550	0
目 03生産物売払収入	70,550	70,550	0
07学校生産物売払収入	70,550	70,550	0
款 14諸収入	269,549	267,515	0
項 07雑入	269,549	267,515	0
目 02雑入	269,549	267,515	0
90保険料負担金	244,027	244,027	0
93雑収	25,522	23,488	0
雑収	22,962	20,928	0
古新聞・雑誌	2,560	2,560	0
計	353,899	339,865	12,000

執行状況調

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

不納欠損額 D	収入未済額			収入歩合 $\frac{B+C}{A-D-F}$	納期内収入率 $\frac{B}{A-D-F}$
	納期限経過 E	納期限未到来 F	計		
円	円	円	円	%	%
0	0	0	0	100.0	13.0
0	0	0	0	100.0	11.1
0	0	0	0	100.0	11.1
0	0	0	0	100.0	11.1
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	2,034	2,034	100.0	100.0
0	0	2,034	2,034	100.0	100.0
0	0	2,034	2,034	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	2,034	2,034	100.0	100.0
0	0	2,034	2,034	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	2,034	2,034	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	2,034	2,034	100.0	96.5

現金出納調

沼津聴覚特別支援学校

(令和 6年度)

区 分	受 入 額			払 出 額	残 高	出納員領収書 発行総額及び 枚 数	現金払込調書 兼領収書総額 及び枚数
	越 高	受 高	計				
教育手数料	円 0	円 1,500	円 1,500	円 1,500	円 0	円 1,500 4 枚	円 1,500 4 枚
生産物売払収入	0	113,450	113,450	113,450	0	113,450 8 枚	113,450 7 枚
雑入	0	3,000	3,000	3,000	0	3,000 7 枚	3,000 7 枚
計	0	117,950	117,950	117,950	0	117,950 19 枚	117,950 18 枚

現金出納調

沼津聴覚特別支援学校

(令和 7年度)

(令和 8年 2月28日現在)

区 分	受 入 額			払 出 額	残 高	出納員領収書 発行総額及び 枚 数	現金払込調書 兼領収書総額 及び枚数
	越 高	受 高	計				
教育手数料	円 0	円 300	円 300	円 300	円 0	円 300 1 枚	円 300 1 枚
生産物売払収入	0	70,550	70,550	70,550	0	70,550 6 枚	70,550 6 枚
雑入	0	2,560	2,560	2,560	0	2,560 6 枚	2,560 6 枚
計	0	73,410	73,410	73,410	0	73,410 13 枚	73,410 13 枚

預 金 調

(令和8年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘要
スルガ銀行沼津セントラル支店	無利息型普通預金	2530700	沼津聴覚特別支援学校 資金前渡者 高橋 潤子	0円	給与等受領用
スルガ銀行沼津セントラル支店	無利息型普通預金	2530701	(自振口) 沼津聴覚特別支援学校 資金前渡者 高橋 潤子	0円	光熱水費、電話料、社会 保険料支払用
静岡銀行沼津駅北支店	無利息型普通預金	985602	沼津聴覚特別支援学校 就学奨励費 代理受領者 高橋 潤子	0円	就学奨励費受領用
残高合計				0円	

郵 券 等 受 払 調

(令和8年2月28日現在)

(単位:枚、円)

区 分	種 類	令和6年度						令和7年度								摘 要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	枚数	金 額	
有料道路回数券等	修善寺道路200円券	151		0		30		121		0		34		87		通級指導用
計		151		0		30		121		0		34		87		
郵便	レターパックプラス520円	4	2,080	0	0	0	0	4	2,080	0	0	0	0	4	2,080	公文書郵送用
計		/	2,080	/	0	/	0	/	2,080	/	0	/	0	/	2,080	

歳入歳出外現金調

県立特別支援校 沼津聴覚特支

(令和 6年度)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
公立学校共済組合掛金等	円 0	円 536,993	円 536,993	円 0	
教職員互助組合掛金等	0	40,229	40,229	0	
所得税	13,822	179,914	183,455	10,281	
計	13,822	757,136	760,677	10,281	

歳入歳出外現金調

県立特別支援校 沼津聴覚特支

(令和 7年度)

(令和 8年 2月28日現在)

区 分	越 高	受 高	払 高	残 高	摘 要
公立学校共済組合掛金等	円 0	円 232,787	円 232,787	円 0	
教職員互助組合掛金等	0	5,247	5,247	0	
所得税	10,281	204,358	214,639	0	
計	10,281	442,392	452,673	0	

歳出予算執行状況調

(令和 6年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 11 教育費	67,719,055	66,949,055	770,000	
項 02 教育委員会費	3,869,202	3,099,202	770,000	
目 02 教育総務費	133,842	133,842	0	
01 報酬	69,906	69,906	0	
03 非常勤職員報酬	69,906	69,906	0	
03 職員手当等	63,936	63,936	0	
01 その他の職員手当等	63,936	63,936	0	
目 03 教育管理費	3,615,360	2,845,360	770,000	
08 旅費	15,100	15,100	0	
02 普通旅費	15,100	15,100	0	
10 需用費	1,855,000	1,855,000	0	
01 その他の需用費	1,855,000	1,855,000	0	
11 役務費	143,660	143,660	0	
14 工事請負費	1,601,600	831,600	770,000	
目 04 教育厚生費	120,000	120,000	0	
01 報酬	120,000	120,000	0	
03 非常勤職員報酬	120,000	120,000	0	
項 07 特別支援学校費	43,508,717	43,508,717	0	
目 01 特別支援学校費	21,009,212	21,009,212	0	
01 報酬	9,882,686	9,882,686	0	
03 非常勤職員報酬	9,882,686	9,882,686	0	
03 職員手当等	3,201,695	3,201,695	0	
01 その他の職員手当等	3,201,695	3,201,695	0	
04 共済費	6,219,756	6,219,756	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	6,219,756	6,219,756	0	
08 旅費	1,705,075	1,705,075	0	
01 その他の旅費	583,796	583,796	0	
02 普通旅費	1,121,279	1,121,279	0	

県立特別支援校 沼津聴覚特支

(令和 6年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
目 02 特別支援学校管理費	22,499,505	22,499,505	0	
01 報酬	1,062,375	1,062,375	0	
03 非常勤職員報酬	1,062,375	1,062,375	0	
07 報償費	327,535	327,535	0	
01 その他の報償費	327,535	327,535	0	
08 旅費	1,117,731	1,117,731	0	
01 その他の旅費	89,639	89,639	0	
02 普通旅費	1,028,092	1,028,092	0	
10 需用費	13,117,866	13,117,866	0	
01 その他の需用費	13,116,943	13,116,943	0	
02 食糧費	923	923	0	
11 役務費	1,107,982	1,107,982	0	
12 委託料	968,726	968,726	0	
13 使用料及び賃借料	416,551	416,551	0	
17 備品購入費	611,600	611,600	0	
18 負担金、補助及び交付金	61,000	61,000	0	
19 扶助費	3,708,139	3,708,139	0	
項 08 学校教育費	20,341,136	20,341,136	0	
目 02 義務教育費	280,300	280,300	0	
01 報酬	270,000	270,000	0	
03 非常勤職員報酬	270,000	270,000	0	
04 共済費	632	632	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	632	632	0	
08 旅費	9,668	9,668	0	
01 その他の旅費	9,668	9,668	0	
目 03 特別支援教育費	1,884,520	1,884,520	0	
01 報酬	1,147,254	1,147,254	0	
03 非常勤職員報酬	1,147,254	1,147,254	0	

県立特別支援校 沼津聴覚特支

(令和 6年度)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
03 職員手当等	円 607,934	円 607,934	円 0	
01 その他の職員手当等	607,934	607,934	0	
04 共済費	5,222	5,222	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	5,222	5,222	0	
08 旅費	124,110	124,110	0	
01 その他の旅費	124,110	124,110	0	
目 04 健康体育費	18,176,316	18,176,316	0	
07 報償費	52,200	52,200	0	
01 その他の報償費	52,200	52,200	0	
11 役務費	37,400	37,400	0	
12 委託料	18,086,716	18,086,716	0	
計	67,719,055	66,949,055	770,000	

歳出予算執行状況調

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

一般会計

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
款 12教育費	58,904,082	47,122,862	11,781,220	
項 02教育委員会費	3,897,865	3,254,165	643,700	
目 02教育総務費	75,215	45,215	30,000	
01報酬	58,000	28,000	30,000	
03非常勤職員報酬	58,000	28,000	30,000	
03職員手当等	17,215	17,215	0	
01その他の職員手当等	17,215	17,215	0	
目 03教育管理費	3,702,650	3,208,950	493,700	
08旅費	60,000	11,580	48,420	
02普通旅費	60,000	11,580	48,420	
10需用費	1,881,000	1,437,480	443,520	
01その他の需用費	1,881,000	1,437,480	443,520	
11役務費	56,650	54,890	1,760	
14工事請負費	1,705,000	1,705,000	0	
目 04教育厚生費	120,000	0	120,000	
01報酬	120,000	0	120,000	
03非常勤職員報酬	120,000	0	120,000	
項 07特別支援学校費	35,088,932	27,246,448	7,842,484	
目 01特別支援学校費	15,399,783	12,134,921	3,264,862	
01報酬	7,760,783	6,218,210	1,542,573	
03非常勤職員報酬	7,760,783	6,218,210	1,542,573	
03職員手当等	1,571,000	1,570,345	655	
01その他の職員手当等	1,571,000	1,570,345	655	
04共済費	5,137,000	3,511,153	1,625,847	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	5,137,000	3,511,153	1,625,847	
08旅費	931,000	835,213	95,787	
01その他の旅費	441,000	345,213	95,787	
02普通旅費	490,000	490,000	0	

県立特別支援校 沼津聴覚特支

一般会計

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
目 02 特別支援学校管理費	19,689,149	15,111,527	4,577,622	
01 報酬	1,018,750	15,750	1,003,000	
03 非常勤職員報酬	1,018,750	15,750	1,003,000	
07 報償費	311,135	254,805	56,330	
01 その他の報償費	311,135	254,805	56,330	
08 旅費	1,236,442	1,112,305	124,137	
01 その他の旅費	47,490	42,652	4,838	
02 普通旅費	1,188,952	1,069,653	119,299	
10 需用費	11,248,102	9,440,881	1,807,221	
01 その他の需用費	11,247,257	9,440,036	1,807,221	
02 食糧費	845	845	0	
11 役務費	1,097,650	621,955	475,695	
12 委託料	1,061,270	711,480	349,790	
13 使用料及び賃借料	522,000	438,027	83,973	
17 備品購入費	548,900	548,900	0	
18 負担金、補助及び交付金	31,500	31,500	0	
19 扶助費	2,563,000	1,885,524	677,476	
26 公課費	50,400	50,400	0	
項 08 学校教育費	19,917,285	16,622,249	3,295,036	
目 02 義務教育費	278,222	226,748	51,474	
01 報酬	270,000	220,000	50,000	
03 非常勤職員報酬	270,000	220,000	50,000	
04 共済費	852	852	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	852	852	0	
08 旅費	7,370	5,896	1,474	
01 その他の旅費	7,370	5,896	1,474	
目 03 特別支援教育費	1,457,813	1,209,831	247,982	
01 報酬	1,099,512	893,496	206,016	

県立特別支援校 沼津聴覚特支

一般会計

(令和 7年度)
(令和 8年 2月28日現在)

区 分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
	円	円	円	
03 非常勤職員報酬	1,099,512	893,496	206,016	
03 職員手当等	268,301	268,301	0	
01 その他の職員手当等	268,301	268,301	0	
04 共済費	7,234	7,234	0	
02 報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	7,234	7,234	0	
08 旅費	82,766	40,800	41,966	
01 その他の旅費	34,163	14,145	20,018	
02 普通旅費	48,603	26,655	21,948	
目 04 健康体育費	18,181,250	15,185,670	2,995,580	
07 報償費	30,600	19,800	10,800	
01 その他の報償費	30,600	19,800	10,800	
11 役務費	24,200	24,200	0	
12 委託料	18,126,450	15,141,670	2,984,780	
計	58,904,082	47,122,862	11,781,220	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12)委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		968,726	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		18,086,716	
計					18,099,028	19,055,442	0
(14)工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		831,600	
計					2,717,000	831,600	0
(16)公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		611,600	
計					1,190,200	611,600	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		61,000	
計					49,200	61,000	0
(21)補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和8年2月28日現在)

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12)委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	711,480	0
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	15,141,670	0
計					15,853,150	0
(14)工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,705,000	770,000
計					1,705,000	770,000
(16)公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17)備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	548,900	0
計					548,900	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	31,500	0
計					31,500	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委託業務名	受 託 者	当 初 設計金額 円	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額 円	委託業務 の内容	摘 要
				当初額 円	変更 増減額 円	計 円						
1	(事務関係) 自家用電気 工作物保安 管理業務	橋本電気管理事務 所	749,100	749,100	0	749,100	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.30 小計	56,100 56,100 56,100 56,100 132,000 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 749,100	随契1号 (少額) 沼津特別支 援学校 自家用電気工作 物保安管理業務	
2	給食業務	シダックス大新東 ビューマン サービス(株) 中部第二支店	58,568,364	52,668,000	52,898	52,720,888	一般	5.8.14 ～ 8.7.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.30 小計	(11,221,196) 1,482,128 1,482,132 1,482,132 1,482,132 1,482,132 1,482,132 1,482,132 1,482,132 1,482,132 1,482,132 1,482,132 17,785,580	R5長期 学校給食及び寄 宿舎食の調理・ 配膳業務	
3	遊具安全点 検業務	(株)ホートクエクション	73,920	73,920	0	73,920	随契	6.7.25 ～ 6.9.30	6.9.6	73,920	遊具13点の安全 点検業務	随契1号 (少額)
4	産業廃棄物 処理	三友水処理(株)	12.1	汚泥1kg 12.1	0	12.1	随契	6.7.31 ～ 6.9.20	6.8.30	73,007	学校・寄宿舎厨 房グリスラップ 槽汚泥引抜き、 汚泥収集運搬業 務	随契1号 (少額) 単価契約
5	産業廃棄物 処理	クリーンサービス(株)	27.5	汚泥1kg 27.5	0	27.5	随契	6.7.31 ～ 6.9.20	6.8.30	76,175	学校・寄宿舎厨 房グリスラップ 槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
6	産業廃棄物 処理	(株)ホクセイ	57,706	57,706	0	57,706	随契	6.8.8 ～ 6.12.27	6.9.19	57,706	校内廃蛍光管・ 廃乾電池収集運 搬・処分業務	随契1号 (少額)
7	産業廃棄物 処理	三友水処理(株)	12.1	汚泥1kg 12.1	0	12.1	随契	6.12.20 ～ 7.1.31	7.1.10	73,954	学校・寄宿舎厨 房グリスラップ 槽汚泥引抜き、 汚泥収集運搬業 務	随契1号 (少額) 単価契約
8	産業廃棄物 処理	クリーンサービス(株)	27.5	汚泥1kg 27.5	0	27.5	随契	6.12.20 ～ 7.1.31	7.1.31	78,100	学校・寄宿舎厨 房グリスラップ 槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
9	混合廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)東部処理	88,000	88,000	0	88,000	随契	7.2.7 ～ 7.3.28	7.4.18	88,000	校内不燃物収集 運搬・処分業務	随契1号 (少額)
	事務関係計	9件								19,055,442		
	合 計	9件								19,055,442		

整理 番号	委託業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更 増減額	計						
参考 1	警備業務委託	セコム(株)		円 8,316,000	円 0	円 8,316,000		1.10.1 ～ 6.9.30			機械警備業務	沼津東高校
2	警備業務委託	セコム(株)		17,820,000	0	17,820,000		6.10.1 ～ 11.9.30			機械警備業務	沼津東高校
3	消防用設備 等保守点検 業務	(株)藤興産		4,180,000	0	4,180,000		6.4.1 ～ 7.3.31			消防用設備機器 の保守点検	沼津工業高 校
4	可燃物収集 運搬処理業 務	(有)大真商会		運搬料 燃やすゴミ 1回 25,410円 プラスチック容 器 1回 25,410円 処分料 1kg 6.82円		運搬料 燃やすゴミ 1回 25,410円 プラスチック容 器 1回 25,410円 処分料 1kg 6.82円		6.4.12 ～ 7.3.31			一般廃棄物の収 集運搬・処分	沼津城北高 校
5	プール浄化 装置保守点 検業務	三友水処理(株)		196,680	0	196,680		6.4.11 ～ 6.11.30			プール浄化装置 保守点検	沼津西高校
6	防鼠防虫業 務	(株)三島美装		239,800	0	239,800		6.4.15 ～ 7.3.31			厨房、食堂の防 鼠防虫業務	沼津視覚特 別支援学校
7	ガスヒートポ ンプエアコン 点検業務	(株)ユアーズ静岡		1,639,000	0	1,639,000		6.7.9 ～ 6.9.30			学校ガスヒートポ ンプエアコン点検 業務	沼津商業高 校
8	建築基準法 第12条に基 づく定期点検 業務	(有)一級建築士事務 所 アドス設計室		1,694,000	0	1,694,000		6.8.13 ～ 7.2.28			建築基準法12条 に係る定期点検 業務	沼津西高校
	計	8件										

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	委託業務名 (事務関係)	受 託 者	当 初 設計金額 円	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額 円	委託業務 の内容	摘 要
				当初額 円	変更 増減額 円	計 円						
1	自家用電気 工作物保安 管理業務	橋本電気管理事務 所	749,100	749,100	0	749,100	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27	56,100 56,100 56,100 56,100 132,000 56,100 56,100 56,100 56,100	自家用電気工作 物保安管理業務	随契1号 (少額) 沼津特別支 援学校
									小計	636,900		
2	給食業務	シダックス大新東 ヒューマン サービス(株) 中部第二支店	58,568,364	52,668,000	83,248	52,751,248	一般	5.8.14 ～ 8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27	(29,006,776) 1,484,022 1,484,030 1,484,030 1,484,030 1,484,030 1,484,030 1,484,030 1,484,030 1,484,030	学校給食及び寄 宿舎食の調理・ 配膳業務	R5長期
									小計	14,840,292		
3	遊具安全点 検業務	(株) ホートクエクシ	74,580	74,580	0	74,580	随契	7.7.22 ～ 7.9.30	7.9.10	74,580	遊具13点の安全 点検業務	随契1号 (少額)
4	産業廃棄物 処理	三友水処理(株)	14.3	14.3	0	14.3	随契	7.8.1 ～ 7.9.30	7.9.30	77,693	学校・寄宿舎厨 房グリストラップ 槽汚泥引抜き、 汚泥収集運搬業 務	随契1号 (少額) 単価契約
5	産業廃棄物 処分	クリーンサービス(株)	27.5	27.5	0	27.5	随契	7.8.1 ～ 7.9.30	7.9.30	69,025	学校・寄宿舎厨 房グリストラップ 槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
6	産業廃棄物 処理	三友水処理(株)	14.3	14.3	0	14.3	随契	7.12.22 ～ 8.1.30	8.1.30	80,410	学校・寄宿舎厨 房グリストラップ 槽汚泥引抜き、 汚泥収集運搬業 務	随契1号 (少額) 単価契約
7	産業廃棄物 処分	クリーンサービス(株)	27.5	27.5	0	27.5	随契	7.12.22 ～ 8.1.30	8.1.30	74,250	学校・寄宿舎厨 房グリストラップ 槽汚泥処分業務	随契1号 (少額) 単価契約
8	混合廃棄物 収集運搬処 分業務	(株) 東部処理	96,800	96,800	0	96,800	随契	8.2.9 ～ 8.3.31		0	校内不燃物収集 運搬・処分業務	随契1号 (少額)
9	産業廃棄物 (業務用冷蔵 庫ほか)収集 運搬処分業 務	セキトラシステム (株)	75,790	75,790	0	75,790	随契	8.2.27 ～ 8.3.31		0	校内不燃物収集 運搬・処分業務	随契1号 (少額)
	事務関係計	9件								15,853,150		
	合 計	9件								15,853,150		

整理 番号	委託業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契 約 期 間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更 増減額	計						
参考 1	警備業務委託	セコム(株)		円 17,820,000	円 0	円 17,820,000		6.10.1 ～ 11.9.30			機械警備業務	沼津東高校
2	消防用設備 等保守点検 業務	(株)藤興産		円 4,378,000	円 0	円 4,378,000		7.4.1 ～ 8.3.31			消防用設備機器 の保守点検	沼津工業高 校
3	可燃物収集 運搬処理業 務	(有)大真商会		運搬料 燃やすゴミ 1回 25,410円 プラスチック容 器 1回 25,410円 処分料 1kg 6.82円		運搬料 燃やすゴミ 1回 25,410円 プラスチック容 器 1回 25,410円 処分料 1kg 6.82円		7.4.8 ～ 8.3.31			一般廃棄物の収 集運搬・処分	沼津城北高 校
4	プール浄化 装置保守点 検業務	三友水処理(株)		円 183,700	円 0	円 183,700		7.4.11 ～ 7.11.28			プール浄化装置 保守点検	沼津西高校
5	防鼠防虫業 務	(株)三島美装		円 256,300	円 0	円 256,300		7.4.15 ～ 8.3.31			厨房、食堂の防 鼠防虫業務	沼津視覚特 別支援学校
6	ガスヒートボ ンプエアコン 点検業務	(有)加藤空調サービ ス		円 641,960	円 0	円 641,960		7.7.18 ～ 7.9.30			学校ガスヒートボ ンプエアコン点検 業務	沼津商業高 校
7	建築基準法 第12条に基 づく定期点検 業務	佐藤設計一級建築 士事務所		円 1,650,000	円 0	円 1,650,000		7.7.25 ～ 8.3.19			建築基準法12条 に係る定期点検 業務	沼津西高校
	計	7件										

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	全国聾学校教頭会会則	聴覚障害教育の振興を図るとともに会員の研修を図ることを目的とする。	4,000円	R6.6.28
2	関東地区聾学校長会会費	関東地区聾学校長会	関東地区聾学校長会規約	聴覚障害教育の振興並びに会員の資質の向上と相互の連携を図ることを目的とする。	5,000円	R6.7.12
3	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	全国聾学校長会規約	聴覚障害教育の振興並びに会員の研修・親睦を図ることを目的とする。	18,000円	R6.7.22
4	第58回全日本聾教育研究大会(東京大会)参加費	全日本聾教育研究大会	開催要項	聴覚障害教育の振興を図るとともに会員の研修を図ることを目的とする。	12,000円	R6.8.14
5	全国聾学校長会研究協議会参加費	全国聾学校長会研究協議会	開催要項	聴覚障害教育の推進に係る学校経営等について研修し、校長としての資質を高めるとともに、校長間の連携を図るための研究協議会。	2,000円	R6.8.15
6	関東地区聾学校教頭会会費	関東地区聾学校教頭会	関東地区聾学校教頭会会則	綿密な協議により、校長補佐として適正円滑なる学校運営に協力し、関東地区聾教育の資質向上を図ることを目的とする。	2,000円	R6.12.5
7	甲種防火管理新規講習受講料	日本防火・防災協会	開催要項	消防法に規定される防火管理者として選任されることができる資格を取得するための講習。	8,000円	R6.12.6
8	子どもの体験型防犯講座「あぶトレ！」開催費	県民生活局	開催要項	子どもの防犯意識の高揚を図ることを目的とする。	10,000円	R7.2.21
計		8件			61,000円	

負担金支出調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	第59回全日本聾教育 研究大会(長崎大会) 参加費	全日本聾教育研究大 会	開催要項	聴覚障害教育の振興を図ると ともに会員の研修を図ることを 目的とする。	2,000円	R7.6.27
2	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	全国聾学校長会規約	聴覚障害教育の振興並びに 会員の研修・親睦を図ることを 目的とする。	18,000円	R7.7.14
3	全国聾学校長会研究 協議会参加費	全国聾学校長会研究 協議会	開催要項	聴覚障害教育の推進に係る学 校経営等について研修し、校 長としての資質を高めるとも に、校長間の連携を図るため の研究協議会。	1,500円	R7.7.31
4	関東地区聾学校教頭 会会費	関東地区聾学校教頭 会	関東地区聾学校教頭 会会則	綿密な協議により、校長補佐と して適正円滑なる学校運営に 協力し、関東地区聾教育の資 質向上を図ることを目的とす る。	2,000円	R7.9.26
5	全国聾学校教頭会会 費	全国聾学校教頭会	全国聾学校教頭会会 則	聴覚障害教育の振興を図ると ともに会員の研修を図ることを 目的とする。	3,000円	R7.10.6
6	関東地区聾学校長会 会費	関東地区聾学校長会	関東地区聾学校長会 規約	聴覚障害教育の振興並びに 会員の資質の向上と相互の連 携を図ることを目的とする。	5,000円	R7.11.14
計		6件			31,500円	

建築工事調

(令和6年度)

整理番号	予算科目	工事箇所	工事名	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育 管理費	沼津市泉町	キュービクル高圧ケーブル更新工事	770,000	770,000	0	770,000	随契	(株)鈴木電気商会	6.12.11 7.5.30	0	学校キュービクル高圧ケーブル更新	—	随契1号(少額) 令達 6.12.3 支払
2	教育 管理費	沼津市泉町	校舎誘導灯設備修繕他工事	1,419,000	798,600	33,000	831,600	随契	システムナオ(株)	7.1.14 7.3.24	831,600	校舎内誘導灯設備修繕	—	随契1号(少額) 令達 6.12.19 支払 7.4.10
			合 計	2,189,000	1,568,600	33,000	1,601,600				831,600			

《参考》

整理番号	予算科目	工事箇所	工事名	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育 管理費	沼津市泉町	令和6年度 [第36-20337-01号] 沼津聴覚特別支援学校常宿舎集団棟給湯設備改修工事	10,604,000	9,955,000	275,000	10,230,000	一般	東工業(株)	6.12.6 7.3.14	10,230,000	常宿舎集団棟給湯設備改修	済	交通基盤部 沼津土木事務所
			合 計	10,604,000	9,955,000	275,000	10,230,000				10,230,000			

建築工事調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

整理番号	予算科目	工事箇所	工事名	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	受注者	着工完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育 管理費	沼津市泉町	キュービクル高圧ケーブル更新工事	770,000	770,000	0	770,000	随契	(株)鈴木電気商会	6.12.11 7.5.30	770,000	学校キュービクル高圧ケーブル更新	—	随契1号(少額) 令達 6.12.3 支払 7.6.20 R7繰越繰越工事調P54/1
2	教育 管理費	沼津市泉町	校舎点検装置更新他工事	946,000	935,000	0	935,000	随契	システムナオ(株)	7.8.22 7.11.28	935,000	校舎内点検装置更新、受信金差動式感知器更新	—	随契1号(少額) 令達 7.7.28 支払 7.12.23
	合 計	2 件		1,716,000	1,705,000	0	1,705,000				1,705,000			

《参考》

整理番号	予算科目	工事箇所	工事名	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	受注者	着工完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
					当初額	変更増減額	計							
1	教育 管理費	沼津市泉町	令和7年度 [第37-22404-01号] 沼津聴覚特別支援学校給水設備改修工事	31,592,000	30,140,000	1,793,000	31,933,000	指名	(株)トーブ	7.7.15 7.11.28	31,933,000	学校受水槽更新、給水槽給水配管設備更新	済	財務部 設備課
2	教育 管理費	沼津市泉町	令和7年度 [第37-22409-01号] 沼津聴覚特別支援学校客信金非常用発電設備更新工事	11,198,000	10,208,000	176,000	10,384,000	指名	富士電設(株)	7.9.4 8.3.2		客信金非常用発電設備更新	予	財務部 設備課
	合 計	2 件		42,790,000	40,348,000	1,969,000	42,317,000				31,933,000			

繰 越 工

整理 番号	予算科目	事業（箇所）名 及び内訳	事業箇所	契 約 額	前年度施行 支払額	繰 越 額
1	教育管理費	県立学校等修繕費 工事費	沼津市泉町地内	円 770,000	円 0	円 770,000
		小 計		770,000	0	770,000
		計		770,000	0	770,000
		工事費・事務費				0
		合 計				770,000
				工事費	1件	770,000
			上 内	委託料	0件	0
			記	未契約分		0
			計	用地費・植樹費		0
			の 訳	負担金		0

事 調

(令和6年度から令和7年度へ繰越分)

(令和8年2月28日現在)

同左支出済額	支出未済額	契約締結方法	受注者 (受託者)	着手 完成(税) 年 月 日	繰 越 理 由
770,000 ^円	0 ^円	随契	(株) 鈴木電気商会	R6.12.11 R7. 5.30	本工事で更新する高圧ケーブルが、 当時のケーブル不足の影響を受け、 60日を予定していた納期が106日に延 びた。
770,000	0				
770,000	0				
0	0				
770,000	0				
770,000	0				
0	0				
0	0				
0	0				
0	0				

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日		増		減		令和7年3月31日		摘要
	現 在						現 在		
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,061,914		千円 1,694		千円 29,565		千円 2,034,043	
土 地	m ² 14,202.68	1,822,898	m ²		m ²		m ² 14,202.68	1,822,898	
立木竹	本 31	2,095	本		本		本 31	2,095	
建 物	m ² 建 4,183.06 延 8,478.78	75,754	m ² 建 _____ 延 _____		m ² 建 _____ 延 _____	16,353	m ² 建 4,183.06 延 8,478.78	59,401	
工作物	個 177	161,167	個 1	1,694	個 1	13,212	個 177	149,649	
公有財産 に準ずる もの		255		0		0		255	
電 話 加入権	件 6	255					件 6	255	

公 有 財 産 調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

区 分	令和7年3月31日		増		減		令和8年2月28日		摘要
	現 在						現 在		
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 2,034,043		千円 6,776		千円 0		千円 2,040,819	
土 地	m ² 14,202.68	1,822,898	m ²		m ²		m ² 14,202.68	1,822,898	
立木竹	本 31	2,095	本		本		本 31	2,095	
建 物	m ² 建 4,183.06 延 8,478.78	59,401	m ² 建 延		m ² 建 延		m ² 建 4,183.06 延 8,478.78	59,401	
工作物	個 177	149,649	個 3	6,776	個 2	0	個 178	156,425	
公有財産 に準ずる もの		255		0		0		255	
電 話 加入権	件 6	255					件 6	255	

借 地 借 家 等 調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量 又は 面積	借 料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	雑屋 建	沼津市 泉 町 4-1	コンクリート ブロック造		m ² 9.72 10.69	円	円 無償	5. 4. 1 ~ 10. 3. 31	沼津聴覚特別支援 学校PTA会長	教材収納庫
2	土地	河川 敷地	沼津市 泉 町 514-6 地先	普通 河川	普通 河川	53.35		免除	5. 4. 1 ~ 8. 3. 31	沼津市長	通行路
	計					64.04		0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る額

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額										
				2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
長期継続契約	電子複写機 賃貸借契約	複写機4台の賃貸借及び使用 (契約日 R2.4.1)	1,904,232	380,846	380,846	380,846	380,846	380,846					
	電子複写機 賃貸借契約	複写機4台の賃貸借及び使用 (契約日 R7.4.1)	2,126,190						425,238	425,238	425,238	425,238	425,238
	給食業務委託	給食の調理・配膳業務 (契約日 R5.8.2)	52,751,248				11,221,196	17,785,690	17,808,352	5,936,120			

行政財産貸付・使用許可調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量 又は 面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用許 可を受けた者の 氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校 敷地	沼津市 泉 町 4-1	学校 用地	学校 敷地	m ² 10.34	円	円 免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	沼津市第五東地 区連合自治会長	自 治 会 防災倉庫設置
2	"	"	"	"	"	0.82		"	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	沼津市長	街路灯 2 本 歩道転落防止柵設置
3	"	"	"	"	"	0.73		"	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	"	防災行政無線 放送塔設置
4	建物	事務 所建	"	鉄筋コンク リート造 3 階		0.25		"	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	"	デジタル地域防災無 線機及び同報無線戸 別受信機設置
5	土地	学校 敷地	"	学校 用地	学校 敷地	本 1	1,500	1,500	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	NTT西日本㈱ 静岡支店長	支線 1 条
6	"	"	"	"	"	4	1,500	12,000	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	東京電力パワー グリッド㈱ 静岡総支社長	本柱 1 本 支線柱 1 本 支線 2 条
			沼津市 泉 町 3-29	宅地	"	4					本柱 2 本 支線 2 条
7	建物	事務 所建	沼津市 泉 町 4-1	重量鉄骨造 トタン葺 2 階		m ² 14.0		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	沼津市長	災害時支援物資・感 染症対策備蓄品置場
8	土地	学校 敷地	"	学校 用地	学校 敷地	1.76		"	7. 4. 1 ～ 12. 3. 31	沼津市長	避難地案内看板・避 難地表示看板設置
合 計								13,500			

備品・図書調

1 / 2 頁

(令和 6年度)

所属 0000231110 県立特別支援学校 沼津聴覚特別支援学校

区 分	令和 6年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 3月31日 現在
		数 量	購入 価 格 (円)	数 量	売却 価 格 (円)	
01-01 机類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-02 台類	17	(0) 0	0	(0) 0	0	17
01-03 いす類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-04 収納保管庫類	23	(0) 0	0	(0) 0	0	23
01-05 印刷機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-07 書類整理器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-10 印判類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
01-11 照明器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-12 寝具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-13 厨房器具類	47	(0) 1	611,600	(0) 0	0	48
01-14 冷暖房器具類	13	(0) 0	0	(0) 0	0	13
01-99 その他の庁用器具類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
02-01 情報処理機器類	122	(1) 1	0	(0) 1	0	122
02-02 情報伝達機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
02-03 再生機器類	1	(0) 0	0	(0) 1	0	0
03-03 視覚用再生等機器類	11	(0) 1	0	(0) 0	0	12
04-01 診療・診断用機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
04-02 衛生検査用機器類	16	(0) 0	0	(0) 0	0	16
04-05 機能回復訓練機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1

備品・図書調

2 / 2 頁

(令和 6年度)

所属 0000231110 県立特別支援学校 沼津聴覚特別支援学校

区 分	令和 6年 3月31日 現在	増		減		令和 7年 3月31日 現在
		数 量	購 入 価 格 (円)	数 量	売 却 価 格 (円)	
04-99 その他の医療衛生機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
05-03 電気試験計測機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-06 環境化学機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-08 度量衡測定機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
05-10 身体測定用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-04 電気電子機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
06-09 木工用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-99 その他の諸機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
08-01 車両類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
09-01 標本美術品	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-05 生物物理化学用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-07 音楽用器具類	15	(0) 0	0	(0) 0	0	15
10-08 芸術用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-12 体育保健用器具類	22	(0) 0	0	(0) 0	0	22
10-99 その他の教育用器具類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
12-01 雑機器	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
50-01 図書	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
計	375	(1) 3	611,600	(0) 2	0	376

備品・図書調

1 / 2 頁

(令和 7年度)

所属 0000231110 県立特別支援学校 沼津聴覚特別支援学校

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 8年 2月28日 現在
		数 量	購入 価 格 (円)	数 量	売却 価 格 (円)	
01-01 机類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-02 台類	17	(0) 0	0	(0) 0	0	17
01-03 いす類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-04 収納保管庫類	23	(0) 0	0	(0) 0	0	23
01-05 印刷機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-07 書類整理器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
01-10 印判類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
01-11 照明器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-12 寝具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
01-13 厨房器具類	48	(0) 2	548,900	(0) 5	0	45
01-14 冷暖房器具類	13	(0) 0	0	(0) 0	0	13
01-99 その他の庁用器具類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
02-01 情報処理機器類	122	(0) 0	0	(0) 2	0	120
02-02 情報伝達機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
03-03 視覚用再生等機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
04-01 診療・診断用機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
04-02 衛生検査用機器類	16	(0) 0	0	(0) 0	0	16
04-05 機能回復訓練機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-99 その他の医療衛生機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2

備品・図書調

2 / 2 頁
(令和 7年度)

所属 0000231110 県立特別支援学校 沼津聴覚特別支援学校

区 分	令和 7年 3月31日 現在	増		減		令和 8年 2月28日 現在
		数 量	購入 価 格 (円)	数 量	売却 価 格 (円)	
05-03 電気試験計測機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-06 環境化学機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
05-08 度量衡測定機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
05-10 身体測定用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-04 電気電子機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
06-09 木工用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-99 その他の諸機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
08-01 車両類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
09-01 標本美術品	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-05 生物物理化学用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-07 音楽用器具類	15	(1) 1	0	(0) 0	0	16
10-08 芸術用器具類	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
10-12 体育保健用器具類	22	(0) 0	0	(0) 0	0	22
10-99 その他の教育用器具類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
12-01 雑機器	9	(0) 0	0	(0) 0	0	9
50-01 図書	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
計	376	(1) 3	548,900	(0) 7	0	372

主要備品調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	04-02	機能検査機器	機能検査機器 ME-170	幼児の聴力測定用として使用する。 年間 200 日使用	H23. 3	円 3, 150, 000
2	04-02	機能検査機器	インピーダンスオーディオ リオン RS-21	鼓膜の動きが正常であるかを検査 することにより、聴力低下の原因を 判断するために使用する。 年間 200 日使用	H7. 2	1, 957, 000
3	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機 MIURA JS-20QE	給食調理業務において食材を短時 間に冷却処理するために使用する。 年間 200 日使用	H25. 9	1, 648, 500
4	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機ジェット SD-66S シンク戸棚台付	寄宿舎調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H9. 3	1, 411, 100
5	01-13	調理器具	ガス調理機器 CSW-G101 ガス式 1/1 ホテルパン 10 段	給食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H29. 3	1, 393, 200
6	04-01	耳鼻咽喉科用機器	補聴器特性測定装置 アフィニティコンパクト	デジタル補聴器の装用に必要なデ ータを取り個人の聴力に最適な補 聴器の調整をするために使用する。 年間 200 日使用	R2. 9	1, 210, 000
7	02-01	パーソナルコンピュ ーター (一式)	パーソナルコンピューター (一式) Endeavor MR8100	情報処理 (A 教室) の授業で使用する。 年間 200 日使用。	H31. 3	1, 188, 000
8	01-13	調理器具	ガス調理機器 SSCG-06SCNU	舎食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H27. 1	1, 155, 600
9	01-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機 中西 WX-12HW	給食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H5. 1	1, 102, 100
10	04-02	機能検査機器	オーディオメータ AA-76 スピーカー付	児童・生徒の聴力の状態を把握する ために使用する。 年間 200 日使用	H14. 11	999, 600
11	01-13	冷蔵 (凍) 庫	テーブル形冷蔵庫 (ホシザ キ製) RT210SDC-RC014	給食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H13. 3	887, 250
12	04-02	機能検査機器	機能検査機器 オーディオメータ AA-76	児童・生徒の聴力の状態を把握する ために使用する。 年間 200 日使用	H26. 1	871, 500
13	01-13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機 中西 MCWK-20	給食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H11. 3	861, 000
14	01-13	冷蔵 (凍) 庫	冷蔵 (凍) 庫 パススルー冷蔵庫 750 mm	給食調理業務において食材を短時 間に冷却処理するために使用する。 年間 200 日使用	H15. 10	859, 950
15	10-99	その他の教育器具	その他の教育器具 校旗	行事・式典で使用する。 年間 10 日使用	S55. 11	750, 000
16	02-02	放送装置	放送装置 ヒシエス移動用 PA CZ500	幼稚部の活動で使用する。 年間 200 日使用	H10. 10	670, 000
17	01-13	食品食器洗浄機	シャワーシンク 1700×1100×850 mm	給食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H9. 7	640, 500
18	01-13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機 中西 MCK-10	給食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	H11. 3	630, 000
19	10-99	その他の教育器具	ログキャビン 学研 12-22708	児童・生徒が中庭で使用する。 年間 200 日使用	H11. 3	620, 000
20	01-13	冷蔵 (凍) 庫	冷蔵 (凍) 庫 ガラス扉 W1200×D840×H1950mm	給食調理業務に使用する。 年間 200 日使用	R7. 3	611, 600